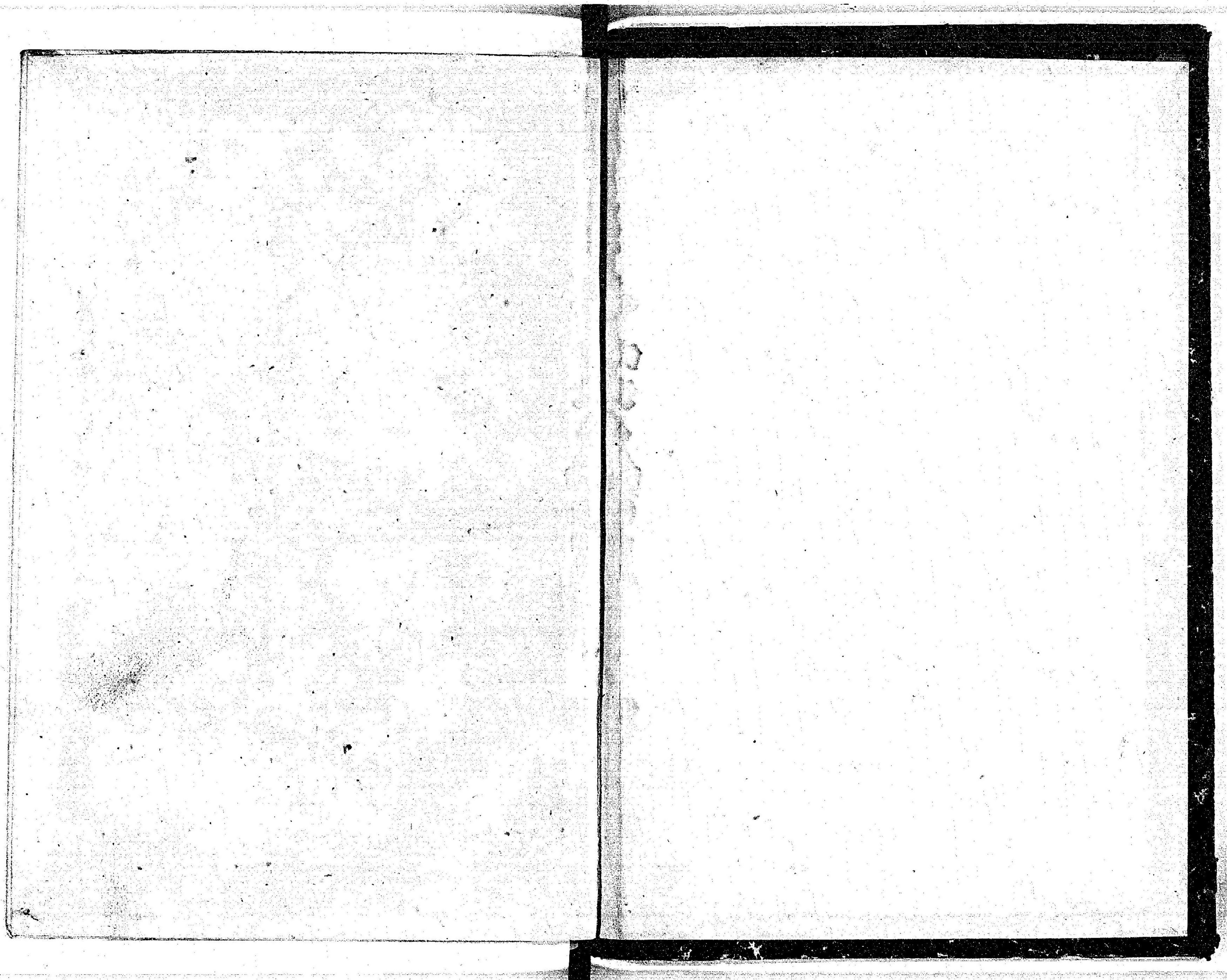


25

162

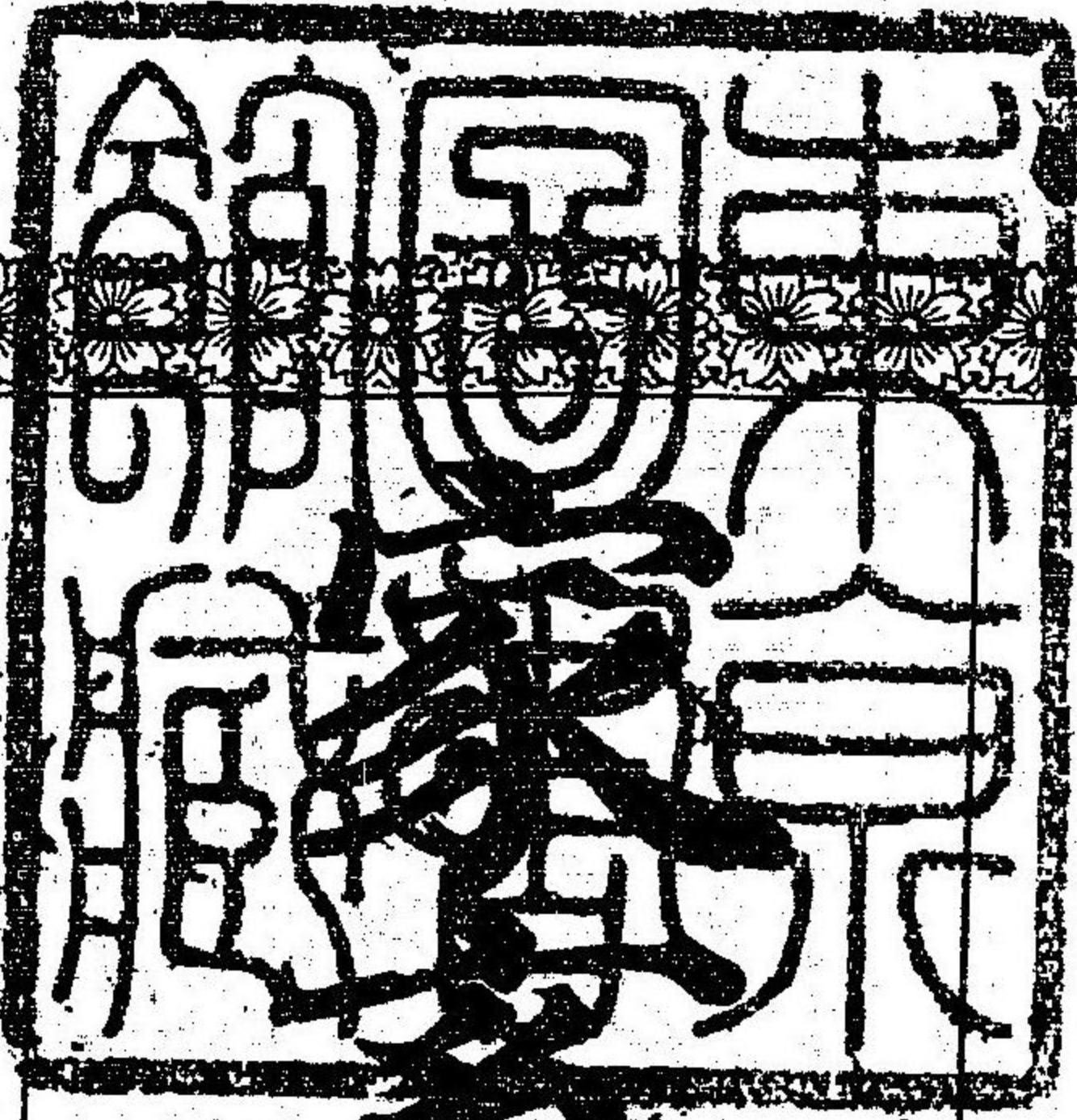
家畜年齡圖說

全



25-162

明治二十年二月一日内務省交付 2692 6092



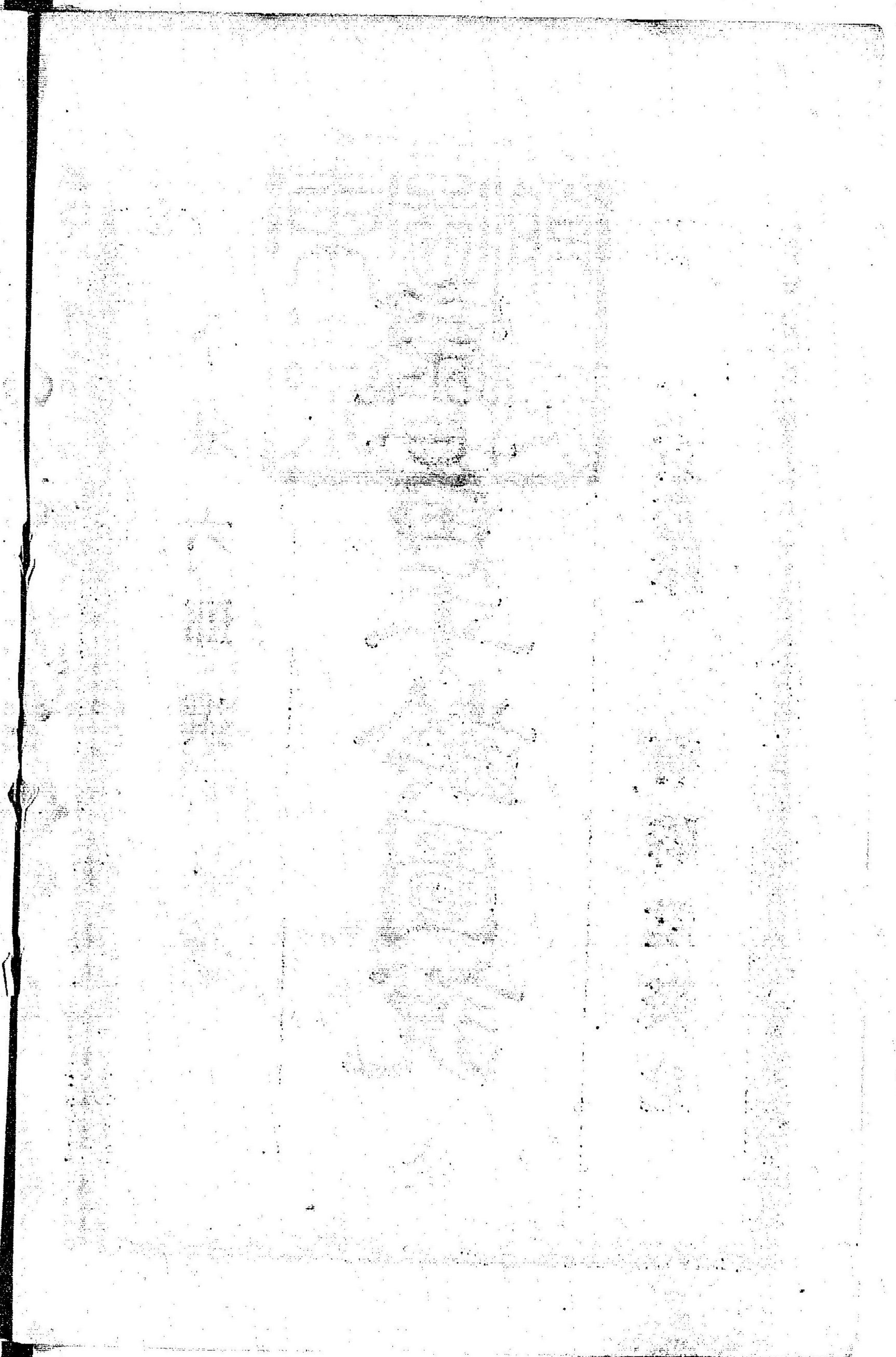
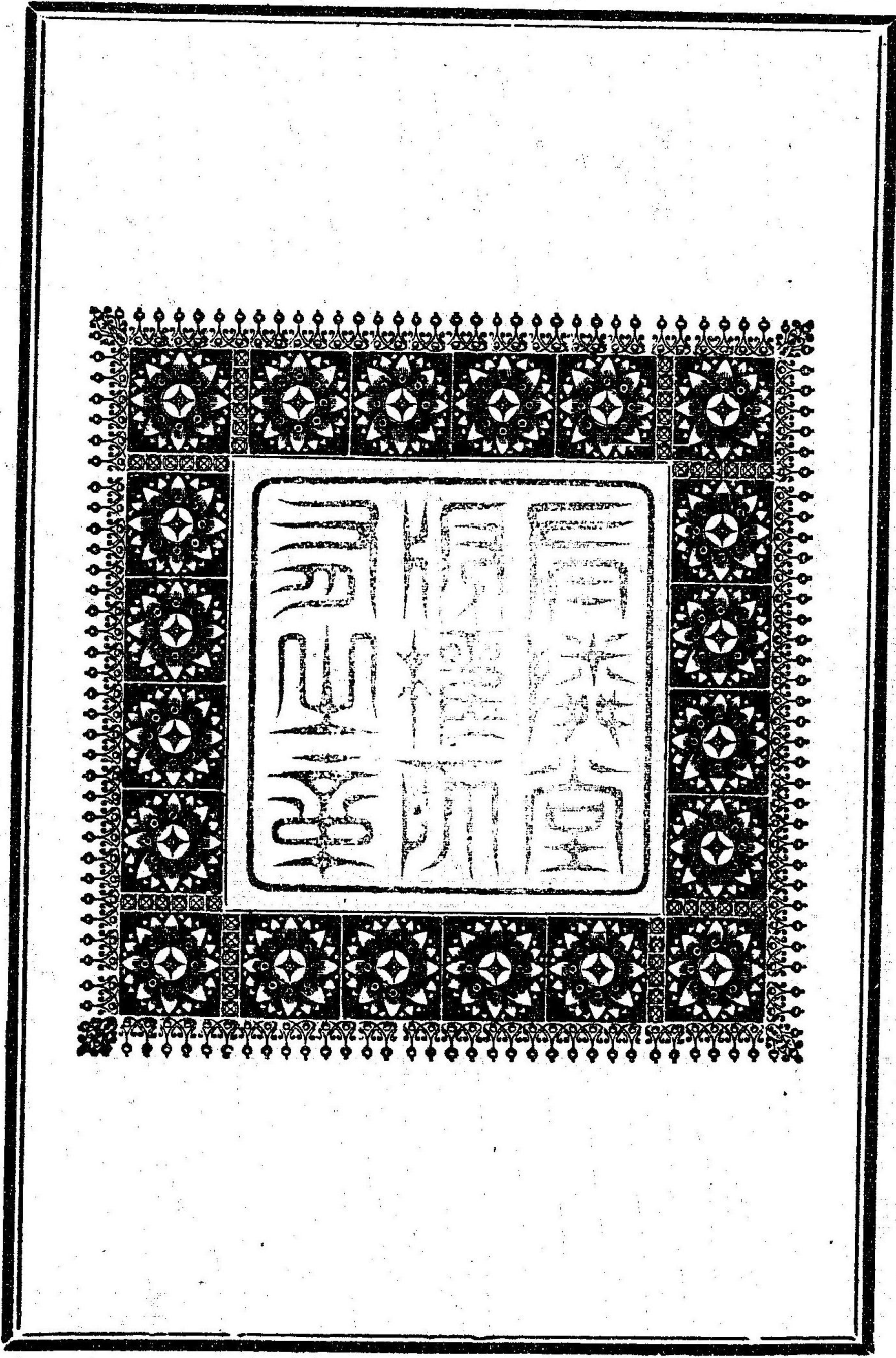
今泉六郎撰

齒年齒圖說

全

東京書肆

有隣堂發兌



目次

提要

第一 馬ノ年齡

第二 牛ノ年齡

其一 齒ニ於ケル鑑定

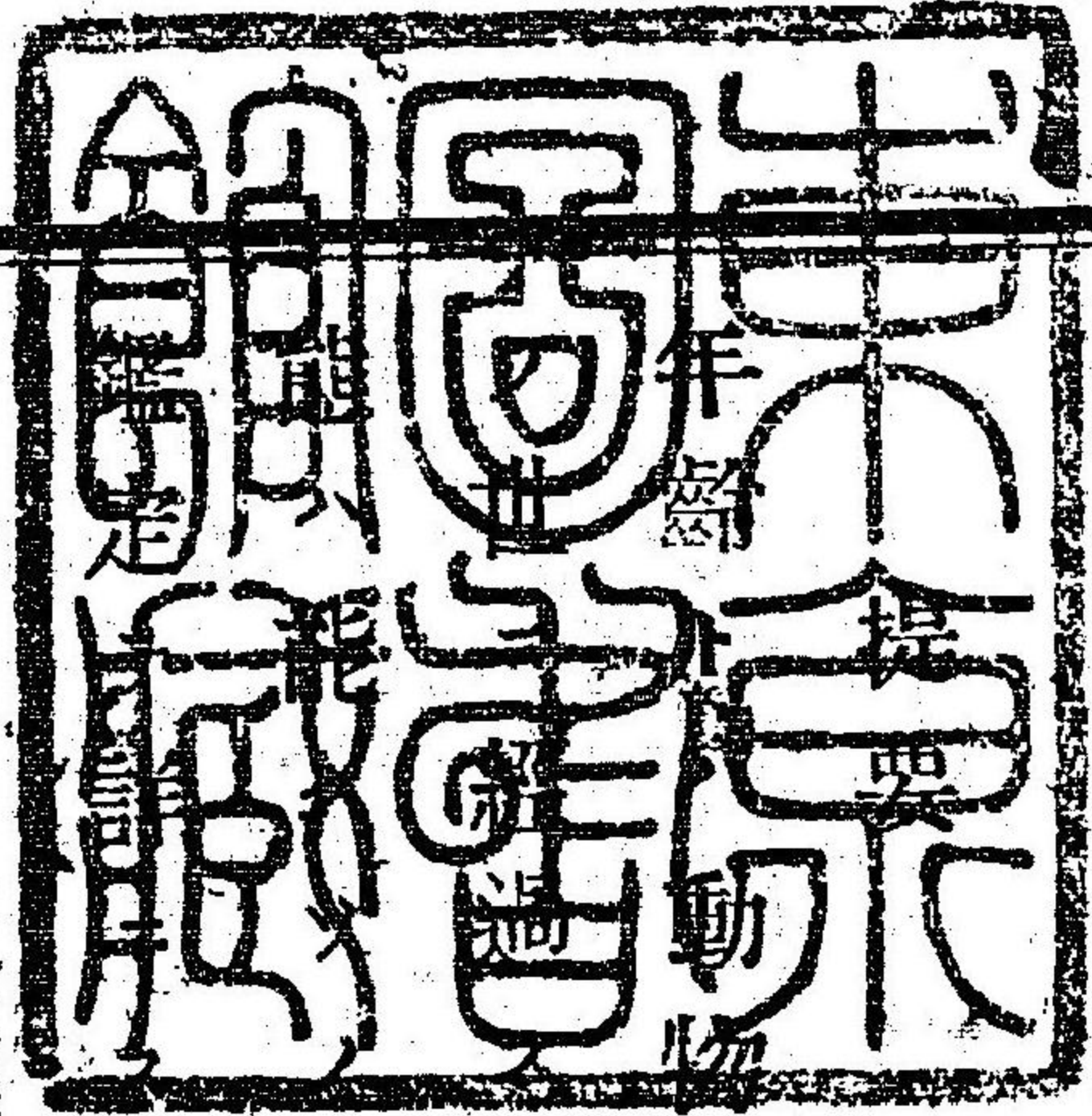
其二 角ニ於ケル鑑定

第三 綿羊及山羊ノ年齡

第四 犬ノ年齡

家畜年齡圖說

東京 今泉 六郎 撰



ノ生ル、ヨリ其自然ノ死ニ至ルマテ此
 ル所ノ諸期ノ謂ヒニソ家畜ノ体構ノ狀
 長幼ノ度ニ符合スルモノナリ故ニソノ
 ルキハ隨テ体力ノ剛柔消長ヲ判斷スル
 ナ得ヘク又能ク奸商ノ欺騙ヲ看破スルヲ得ルナリ
 家畜ノ年齡ハ概シテ之ヲ三期ニ區別スヘシ即チ幼齡
 壯齡、老齡、是ナリ

二
幼齡ハ成長ノ期ニシテ生体ノ諸器關ハ皆ナ此間ニ發育
シツノ機能悉ク定リ終ニ生殖作用ノ發動ヲ見ル此ノ
期ハ更ニ二區ニ分別スルヲ得ヘシツノ一ハ著シク淋
巴質ニ秀逸スル時ヲ云ヒツノ二ハ血氣最モ旺盛ヲ致
スノ期ヲ云フナリ凡ソ幼齡ノ經過ハ類族ニヨリ一様
ナラズ馬ハ三年乃至四年牛ハ二年乃至三年豚ハ大約
八月犬ハ殆ト一年ナリ又全類ト雖モツノ種族ヲ異ニ
スルニ從ヒ多少ノ差アリ所謂早熟ノモノニ在テハ必
ズシモ定例ヲ追ハスシテ能ク壯齡者ノ役務ニ堪ユル
モノアリ

三
壯齡トハ適實ニ生殖作用ヲ營爲シ得ベキ年限ノ謂ヒ
ナリ是レ家畜ノ能ク吾人カ指命ニ服行スルノ時期ニ
シテ獸醫カ衛生上及ヒ病理的ノ關係ヲ以テ親シク動物
ヲ支配スルモ亦タ此ノ間ニアリ又肥胖セシメテ食肉
ニ供給スルモ亦タ此ノ期ノ末ヲ常トスルナリ
老齡ハ衰頹ノ期ニシテ最早生殖ノ作用ニ適セザルノ時
ヨリ自然ノ死ニ赴クノ間ヲ云フナリ此ノ期ニ至レバ
漸々力量ト疲勞ニ堪ユルノ性トテ失フテ常トス殊ニ
過刻ニ使役スルハ此ノ期ニ達スル轉タ急ナリ此ノ
期ハ馬ニ於テハ通常十四年ニ始リ牛ハ泰西諸國ニ於

テハ早ク肉舖ニ販クヲ以テ老齡ヲ見ル稀レナリト云
 ヘトモ概シテ洋種ニ在テハ大約八年ニシテ此ノ期ニ
 至ルモノトス犬ハ大抵十年前後ニアリ
 凡ソ老馬ニ於テハ白毛眼上ニ現ハレ眼壺凹ミ下顎縁
 薄クナリ背部反彎スルヲ常トス牛ニ於テハ角頗ル延
 長シ犬ハソノ齒ヲ失フ
 次ニ馬牛羊犬各類ニ就テ逐一圖例ヲ掲ケ以テソノ年
 齡ヲ徴知スヘキ標準ヲ記述スヘシ

第一 馬ノ年齡

馬ノ年齡ヲ徴知スベキ最モ確實ノ標準ハ齒ニ供フ蓋

シ齒ニ賴テ之ヲ鑑定スルノ方ハソノ由來頗ル遠シ然
 レモソノ方ヤ唯タ乳齒ノ脱落交換及ヒ壯齒ノ初現ノ
 摩軋ニ就テ定メシノミ故ニ八年ノ上ニ出ツレハ漠ト
 ソソノ據ル所ヲ知ラザリキ近世ニ至テ獨乙ノ「ベシナ」
 及「ボームステル」佛朗西ノ「シラール」父子ノ研究ニヨリ
 年齡ノ鑑法大ニ進ミ更ニ輓近ニ及ンテ「レノール」
 「アン」
 「リー」
 「ブーレー」
 「レーナル」等ノ碩學輩出シテ益々ソノ精
 微ヲ盡クスニ至レリ
 凡ソ馬屬ノ齒ハ總數三十六乃至四十四箇トナス此ノ
 諸齒ハ各箇多少ノ形狀ヲ異ニシソノ位置亦タ同カラ

ズ是レ種々ノ作用ニ應スル所以ナリ之ヲ大別スレバ
 口腔ノ前門ニ位シテ食物ヲ截切スルノ用ニ供スルモ
 ノヲ截齒ト云ヒ次位ニアリテ裂綻ノ用ニ供スルモノ
 ヲ裂齒又鉤齒又犬齒ト云ヒ兩側ニ位シテ廣面ヲ呈シ
 食物ヲ碎壑スルノ用ニ供スルモノヲ齧齒ト云フソノ
 數ハ截齒十二鉤齒四牝馬ニ於テハ概シテ之ヲ有セズ稀齧齒
 レニ存スルヲアルモ甚ク微小ナリ
 二十四ヲ常トスキトソ眞齧齒ノ前方ニ於テ每列一箇
 ノ補齧齒ヲ認ムルヲアリ此ノ場合ニ在テハ總數四十
 四箇トナルナリ
 以上ノ諸齒皆必ズシモ年齡ヲ徵スベキモノニアラズ

就中主トソノ用ニ應スルハ下截齒ナリ是レ獨リ馬
 ノミ然ルニアラズ自余ノ草食獸亦皆ナ同シ
 截齒ニ二種ノ別アリ即チ第一齒式又乳齒又脫落齒及
 ヒ第二齒式又代換齒又持久齒是ナリ
 截齒ハ位置ニヨリソノ名ヲ異ニス中央ニ位スル二箇
 即チ第一圖ノ「イ」ヲ把齒又攝齒ト云ヒソノ左右ニ存ス
 ル「ロ」「ロ」ヲ中齒ト云ヒ兩端ニ居ル「ハ」「ハ」ヲ隅齒ト云フ各
 齒皆二部ノ別アリソノ自由部ヲ稱シテ齒冠ト名ケ齒
 槽中ニ嵌入スル所ヲ稱シテ齒根ト云フ齒冠ハ前面第
 二圖ノ「イ」后面(ロ)内緣(ハ)外緣(ニ)前緣(ホ)后緣(ヘ)ヲ呈ス后

縁ハ低クシテ前縁トハ黑色ナル深窩ニヨリ分タル是
 レ真正ナル盲囊ニシテ名ケテ齒殼ト云フ此ノ窩ノ底面
 ノ邊緣ト水平ヲ呈スルハ損耗ニヨラスンバアラズ損
 耗トハ何ソヤ摩軋是レノミ
 第三圖ハ截齒ヲ長徑ニ從テ縱斷セシモノニシテ「イ」「イ」ハ
 珙瑔質「ロ」「ロ」ハ象牙質「ハ」ハ齒塊ナリ第四圖ハ截齒ヲ横
 斷セシモノニシテ「イ」ハ珙瑔欄「ロ」ハ中心珙瑔質「ハ」ハ新成
 ノ象牙質ヨリ成構スル齒星「ニ」ハ原始象牙質ナリ
 截齒ノ形狀ハ吾人カ検査スル所ノ長徑ノ點ニ從ヒ甚
 タ一樣ナラズ自由端ニ於テハ前後ニ扁平ナリ遠ク之

ヲ距レバ卵形トナリ次ニ圓形次ニ三角次ニハ左右ニ
 扁平トナル若シソノ長徑ヲ數ミリメートルニ分テハ
 漸次ニ諸形ノ表面ヲ呈ス(第五圖)此ノ形構ヲ知ルハ馬
 齡ノ次半ヲ徵知スベキ主要ナル基礎トナルモノナリ
 第六圖ハ脫落齒即チ乳齒ナリ
 第七圖ハ犬齒即チ鉤齒ニシテ「イ」ハ外面「ロ」ハ内面ナリ此
 ノ齒ハ牝馬及驢馬ニ於テハソノ發育幽微ナリ
 馬兒ハ生時大低一齒モ現存セザルヲ常トス然レモ日
 ナラズ發生スルヲ見ル概シテ第六日乃至第十二日ニ
 ノ把齒ノ前縁現ハル后縁ハ大約一月ヲ經ザレバソノ

水平ニ至ラス(第八圖)ソノ時ニ至レバ中齒少ク現出ス
爾來若干ノ間單ニ八箇ノ截齒ノミニ止マルナリ(第九
圖)隅齒ハ發生一樣ナラス「シラール」ハ六月乃至十月ニ
シ(第十圖)現ハルト云ヒ「ブラシー」クラルク「ハ三月ニシ
現ハレ六月ニシ水平ニ至ルト云ヘリ十月或ハ十一月
ニシ乳齒ノ把齒及中齒摩軋シ十八月ニ及ンテソノ隅
齒摩軋ス
第二齒式ノ把齒ハ二年半ニシソノ前縁ヲ現シ三年ニ
シ乳齒ノ中齒ト水平ヲ全フス第十一圖ハ即チ三年ヲ
示スモノナリ(乳齒ノ把齒脱落シ壯齒ニ代換ス)

全中齒ハ三年半ニシ萌露シ四年ニシ把齒ト水平ニ至
ル第十二圖ハ即四年ナリ(乳齒ハタ、隅齒ヲ存スルノ
ミ爾余ハ皆代換ヒリ)
全隅齒ハ四年半ニシ萌露シ五年ニシ中齒ト水平ニ至
ル第十三圖ハ即チ五年ナリ此ノ齡ニ至レハ乳齒ノ隅
齒脱落シテ悉ク壯齒トナリソノ把齒及ヒ中齒ハ已ニ
摩軋ヲ始ム
第十四圖ハ六年ナリ隅齒摩軋ヲ始ム但ソノ前縁ノミ
把中二齒ノ摩軋ハ既ニ著シク進メリ
第十五圖ハ七年ナリ隅齒ノ兩縁摩軋シ把中二齒ハ大

ニ摩軋ス此ノ齡ニ於テ燕尾始メテ現ハル
 第十六圖ハ八年ナリ諸截齒悉ク摩軋ス然レモ齒殼ノ
 底尙ホ廣ク現ハレ常ニ黑色ナリ
 第十七圖ハ九年ナリ把齒圓形トナリ齒殼ノ存スルモ
 ノ甚々小ナリ齒星現ハル
 十年ニシテ全變ヲ中齒ニ呈シ十一年ニ均シク之ヲ
 隅齒ニ呈ス
 第十八圖ハ十二年ナリ隅齒圓形トナリ中心珙瑗質僅
 カニ存シ齒星頗ル現ハレ中心ニ存ス
 十三年ニ至レハ中心珙瑗質皆消耗ス

十四年(第十九圖)乃至十七年(第廿圖)ノ間ハ三角形ヲ呈
 スルノ期ナリ即チ把齒ハ十四年ニ於テシ中齒ハ十五
 年ニ於テシ隅齒ハ十六若クハ十七年ニ於テス
 十八年(第廿一圖)ニ至レバ三角ノモノ延長シテ兩側ニ
 扁平トナリ二十年二十一年(第廿二圖)ニ於テ全截齒二
 角ヲ呈シ全時ニ齒弓狹窄シテ扁平トナル第二十三圖
 ハ佛語ニ謂フ所「シヴァール、ベー、ギユ騙欺スル馬ノ義ナリ此ノ馬
 ハ齒殼長ク存ス是レ齒殼ノ過深ナルニヨリ或ハ象牙
 質及珙瑗質ノ過堅ナルカ爲ニ摩軋スル少キニヨル此
 ノ齒ハ平常ノモノニ比スレバ過長ナルカ故ニ想像上

ソノ剰余ヲ減殺シテ之ヲ推算スレバソノ眞ヲ得ルナ
リ第廿四圖ハ吸嚙佛ノ癖習ニヨリ摩軋面ノ變動ス
ルヲ示スモノナリ此ノ癖馬ニ於テハキアリテ全ク變
形シ年齢ヲ探知スルニ難キヲアリ

第廿五圖ハ馬商カ幼齡ニ騙センカ爲メ齒殼ヲ假造セ
シ狀ヲ示ス是レ機功ヲ極ムルモ能ク齒ノ形狀及ヒ齒
星ノ現存ニ注目スルキハ容易ニソノ贋ヲ辨知スヘシ

第二 牛ノ年齢

牛ノ年齢ハ齒及ヒ角ニ賴テ徵知スベシ

其一 齒ニ於ケル鑑定

牛ノ齒ハ總數三十二箇即チ齶齒二十四上下兩顎各六箇截齒八

箇皆上下顎ニ排列ス上ヲ常トナセヒ往々馬ニ於ケルカ如

ク亦々別ニ四箇ノ補齶齒ヲ有スルヲアリ截齒ヲ區別

シテ把齒第一中齒第二中齒及隅齒トナスソノ形狀甚

タ馬ニ異ナレリ自由部ハ前后ニ扁平ニソノ上方廣ク齒

齶ニ近接シテ逾々狹シ下面ハ平滑ニソノ凸形ヲ呈シ上

面又后面ハ口内ニ向フ摩軋ハ主トメソノ兩面ヲ分區

スベキ界縁ニ現ハル此ノ縁ハ新齒ニ在テハ尖銳ナレ

ヒ摩軋スルニ從ヒ第三ノ面ヲ表ス初メハ狹クシテ甚

タ斜傾スレヒ漸々廣延シ水平ニ歸ス此ノ面ハ多少凹

陷シ黄色ノ横帯ヲ呈ス是レ馬ノ齒星ヲ代表スルモノナリ

牛兒ハ屢々把齒及第一中齒ヲ以テ生ルレモ概シテ生后八日間ニ現ハル、ヲ常トス第廿日ニ至レバ第二ノ中齒及ヒ隅齒ノ端ヲ現ス然レモ齒弓全形ノ正圓ヲ呈スルハ第五或ハ第六月ヲ期ス摩軋ハ食物ニヨリ一様ナラズト雖モ概シテ乳齒ノ把齒ハ十月ニ至テ摩軋スルモノトス

第一中齒ハ一年ニシテ摩軋ス

第二中齒ハ十五月ニシテ摩軋ス

隅齒ハ十八月乃至二十月ニシテ摩軋ス(第廿六圖)此ノ時ニ於テ把齒落チ二年ニシテ代換把齒高徑ヲ均フス(第廿七圖)

二年半乃至三年ニシテ第一中齒交換ス(第廿八圖)

三年半乃至四年ニシテ第二中齒交換ス(第廿九圖)

四年半乃至五年ニシテ隅齒交換ス(第卅圖)

約言スレバ二年ニシテ二壯齒出テ三年ニシテ四壯齒出テ四年ニシテ六壯齒出テ五年ニシテ悉ク備ハル

五年乃至六年ニ至レバ隅齒全ク成長シ全截齒整列シテ弦狀ヲ呈ス

七年乃至八年ニシテ把齒水平トナリ八年乃至九年ニシテ
 中齒水平トナリ十年ニシテ隅齒水平トナリ十一年ニシテ
 レバ逾々摩軋シテ箇々相離隔ス十二年ニ於テハ齒ノ
 離隔増加シ齒星白縁ヲ呈シ諸齒方形ヲ呈ス(第三十一
 圖)

此ノ時ヨリ截齒漸々離隔シ齒星圓形ヲ執リ齒形全ク
 滅却シテ纔カニ圓形黃色ノ根株ヲ呈スルノミ然ルル
 ハ復タ年齡ノ正確ヲ知ルベカラズ
 改良種及ヒ殊ニ英國ノ短角種及ヒ他ノ或ル種ニ於テ
 ハ齒ノ成育ハ骨ノ成育ト共ニ頗ル早ク二十六圖ハ十

二乃至十五月ニ二十七圖ハ十五乃至二十一月ニ廿八
 圖ハ二年三月ニ廿九圖ハ二年九月卅圖ハ三年三月ニ
 卅一圖ハ八年以上ニ適ス半早熟種ハ前者ヨリ六月乃
 至九月ヲ遲フス

其二 角ニ於ケル鑑定

一年ニ於テハ角圓錐形ニシテ殆ト直クソノ基礎ニ一ノ
 輕微ナル環線ヲ呈ス
 二年ニ於テハ稍々延長シ多クハ少ク彎曲シソノ基礎
 ニ輕キ二環ヲ呈ス
 三年ニ於テハ弓狀トナリ別ニ顯著ナル一環ヲ呈ス(第

卅二圖ノ「イ」故ニ角ヲ一見シテ明カニ一環ヲ呈スルモ
 ノハ三年タルナリ
 四年ニ至レバ第二環ヲ呈シ五年ニ第三環ヲ呈ス以下
 之ニ倣フ(但初ノノ二環線ハ五六年ノ間ニ消散ス)故ニ
 六環ヲ有スルモノハ八年ノ牛タルヲ知ルナリ
 八九或ハ十年ニ至レバ圓管狀トナリ基礎薄減シ各環
 漸々相混全ス
 十二、或ハ十三年ニ至レバ頂點曲旋シ基礎ハ薄クナリ
 粗糙トナル而シテ環ヲ分別スル困難ナリ屢々奸商等環
 線ヲ磨消シテ幼年ノ觀ヲ裝フアリ

概シテ日本牛ニ於テハ角環甚タ不整ナルカ故ニ之ニ
 由テ徵シ得ヘキモノ頗ル稀レナリ

第三 綿羊及山羊ノ年齢

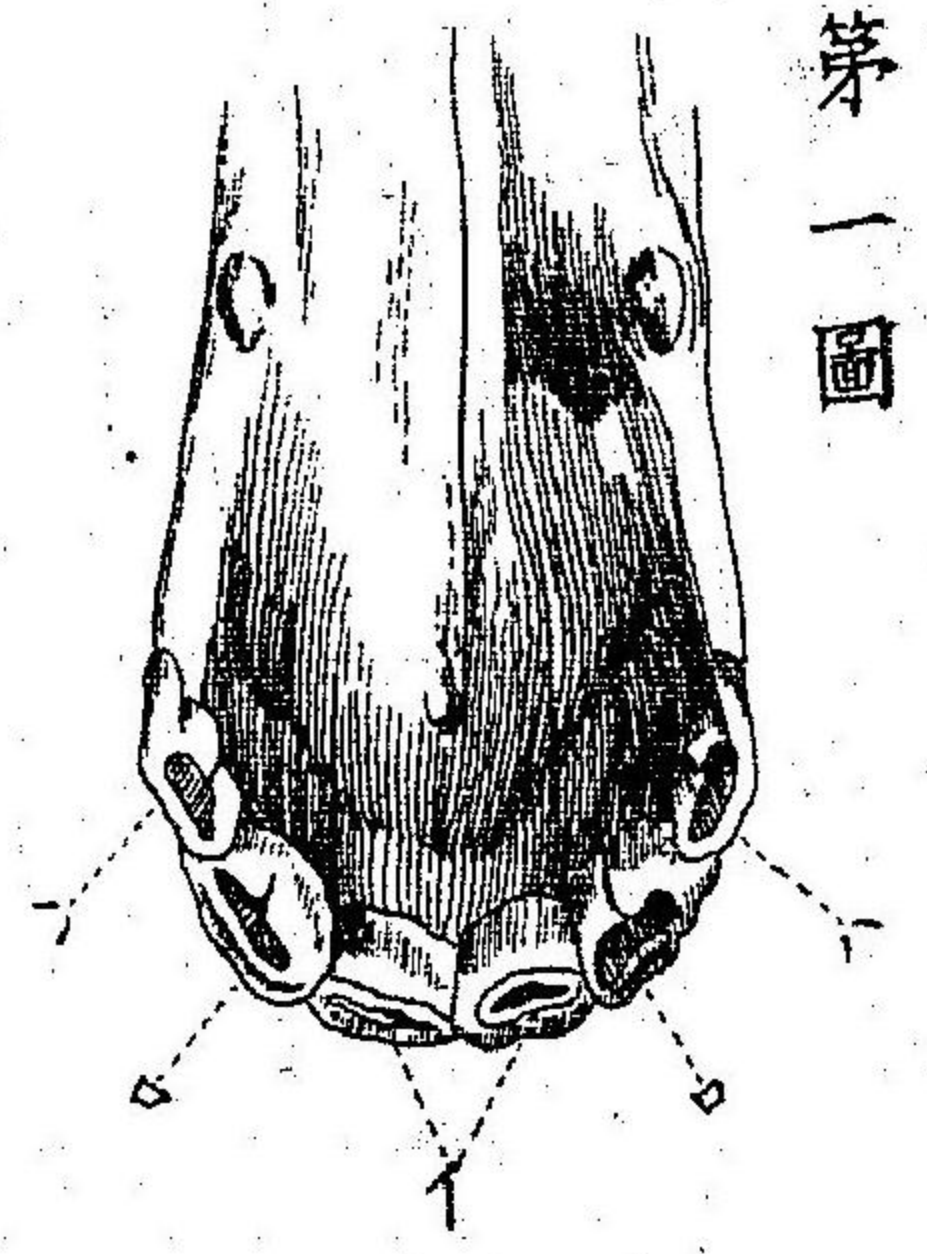
綿羊及山羊ノ齒數ハ牛ニ同シ常ニ齒ナクシテ生レ把
 齒及第一中齒ハ初週間ニ現ハレ第二中齒ハ九日乃至
 十日ニ現ハル然レモ隅齒ハ稀レニハ四週ノ末若クハ
 五週日ノ初メニ至ラサレバ發現セス齒弓三月ニ正
 圓ヲ呈ス(第三十三圖)

十八月ニシテ把齒交換シ(第三十四圖)二年ニシテ第一中齒
 交換ス(第三十五圖)

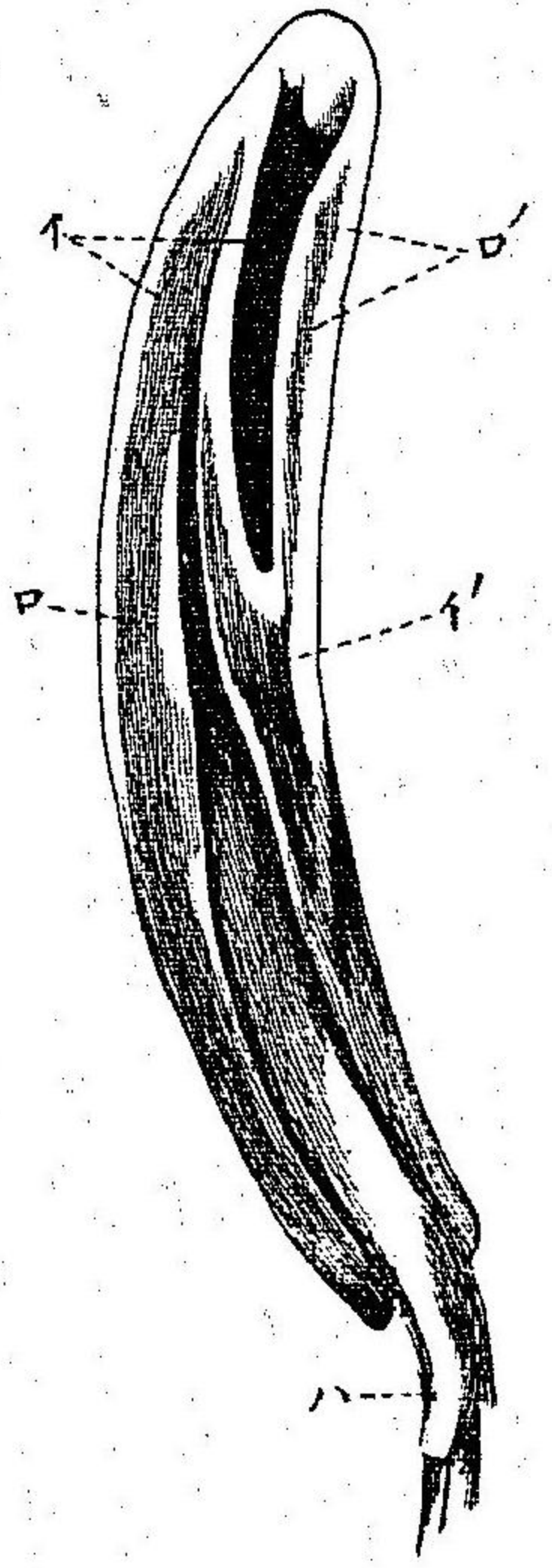
三年乃至三年半ニシテ第二中齒交換ス(第三十六圖)
 四年乃至四年半ニシテ隅齒交換ス(第卅七圖)
 五年ニシテ壯齒弓圓形ヲ呈ス
 九年ニシテ全齒摩軋ス(第三十八圖)
 綿羊ニ於テモ亦タ牛ニ於ケルカ如ク改良種ノ「メリノ」
 及殊ニ英國種ハ第一齒ノ交換ハ第一年ノ末ノ前ニ
 アリ故ニ卅四圖ハ一年ヲ表スソノ他卅五圖ハ十八月
 卅六圖ハ二年三月、卅七圖ハ三年ヲ表シ卅八圖ハ六乃
 至七年ヲ表ス半改良種ハ前者ヨリ六月ヲ遅フス

第四 犬ノ年齢

犬ハ生時常ニ截齒及鉤齒ヲ具フ此ノ際眼ハ尙ホ閉鎖
 スルモノトス概シテ眼瞼ノ分開スルハ十二日乃至十
 五日ノ後ニアリ二月ニ至レバ交換始マル截齒ト鉤齒
 ハ五月ニシテ交換ス八月ニシテ全成ス大犬ハ小犬ヨリ遅
 シ一年ニ在テハ齒新鮮白色未軋ナリ(第卅九圖)
 二年(第四十圖)ニシテ下把齒摩軋シソノ三尖消亡ス
 三年(第四十一圖)ニシテ下中齒ノ三尖消亡シ上截齒ニ始
 マル
 四年(第四十二圖)ニシテ上截齒摩軋シ齒黃色ヲ帶ブ
 五年(第四十三圖)ニシテ諸齒摩軋ス以後ハ判知スヘカラス

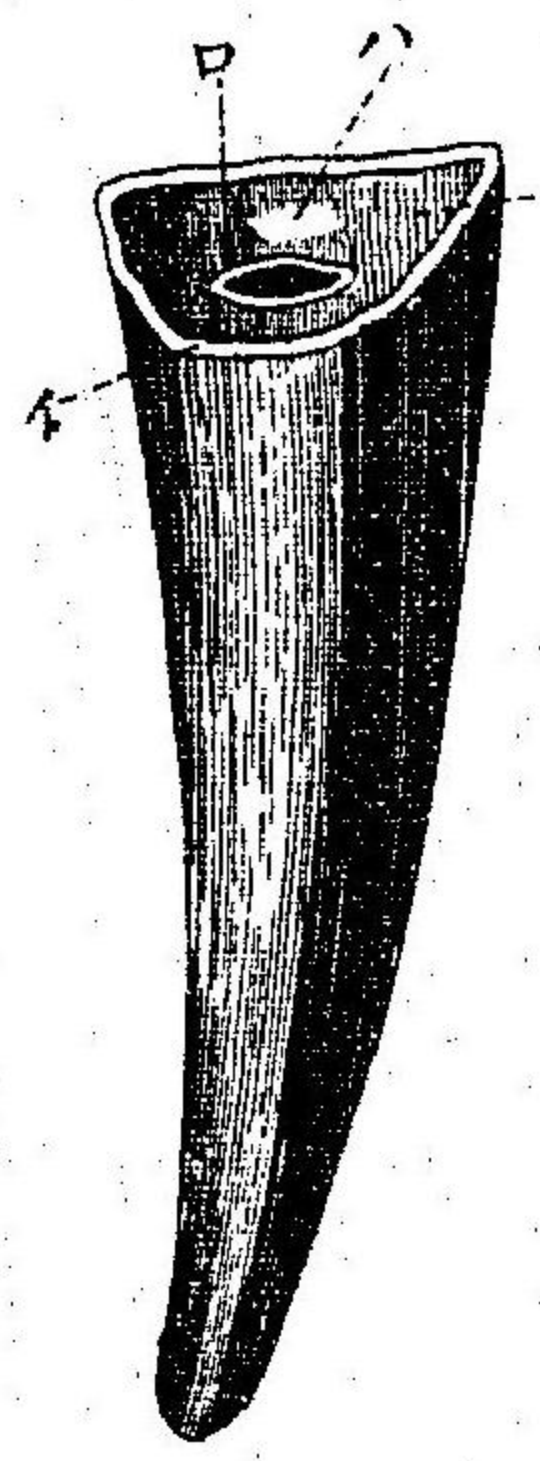
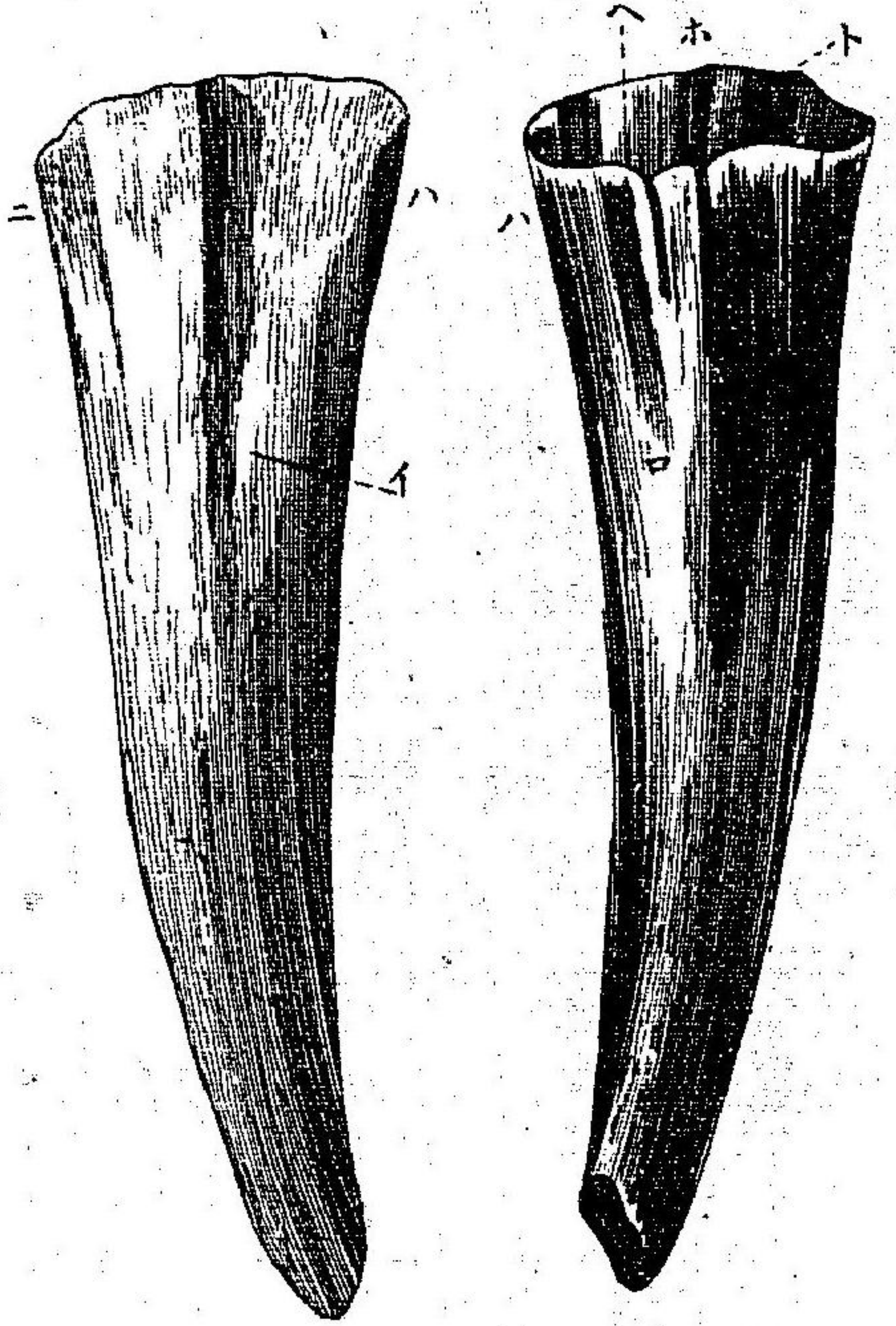


第一圖



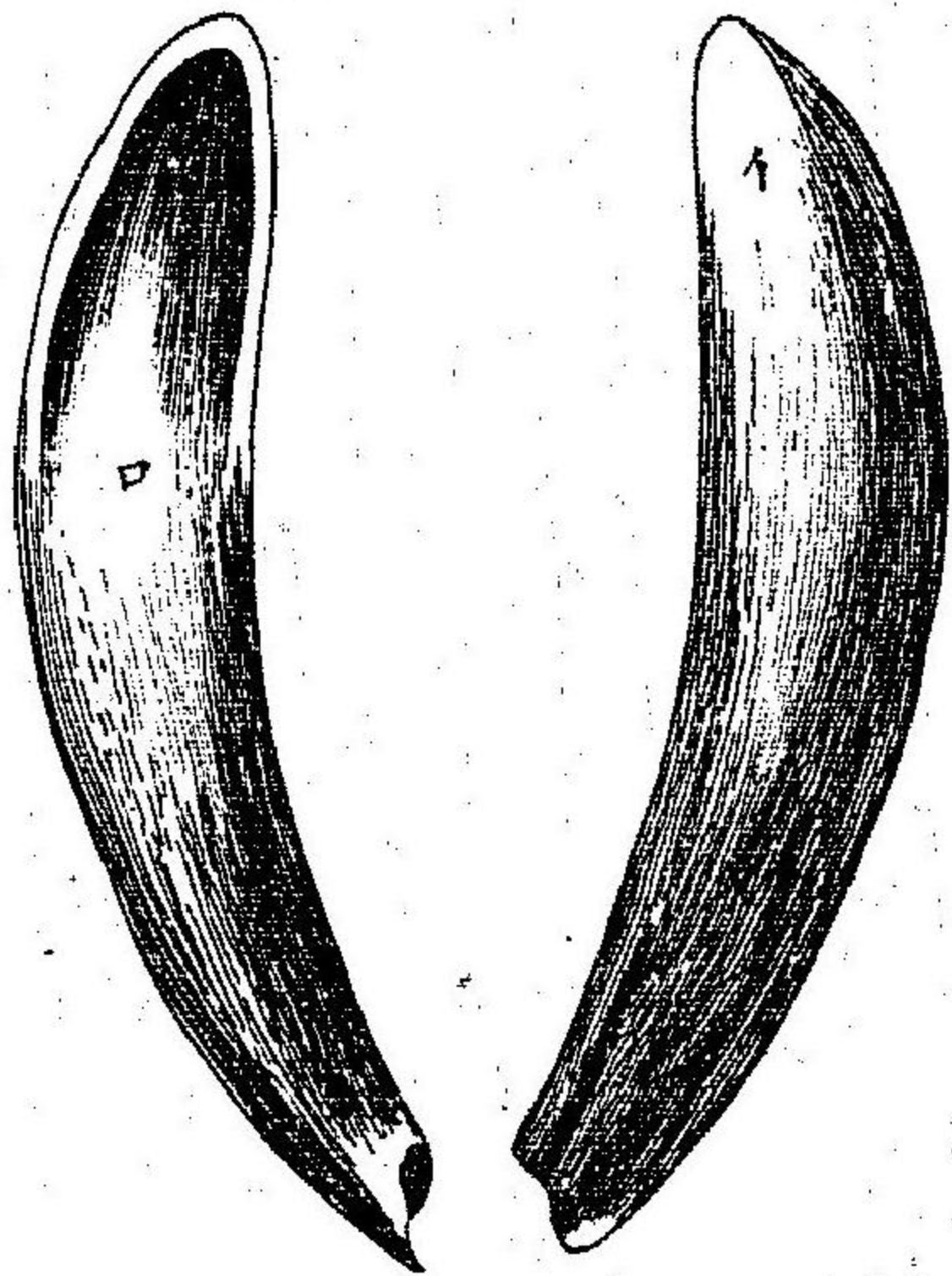
第三圖

第二圖

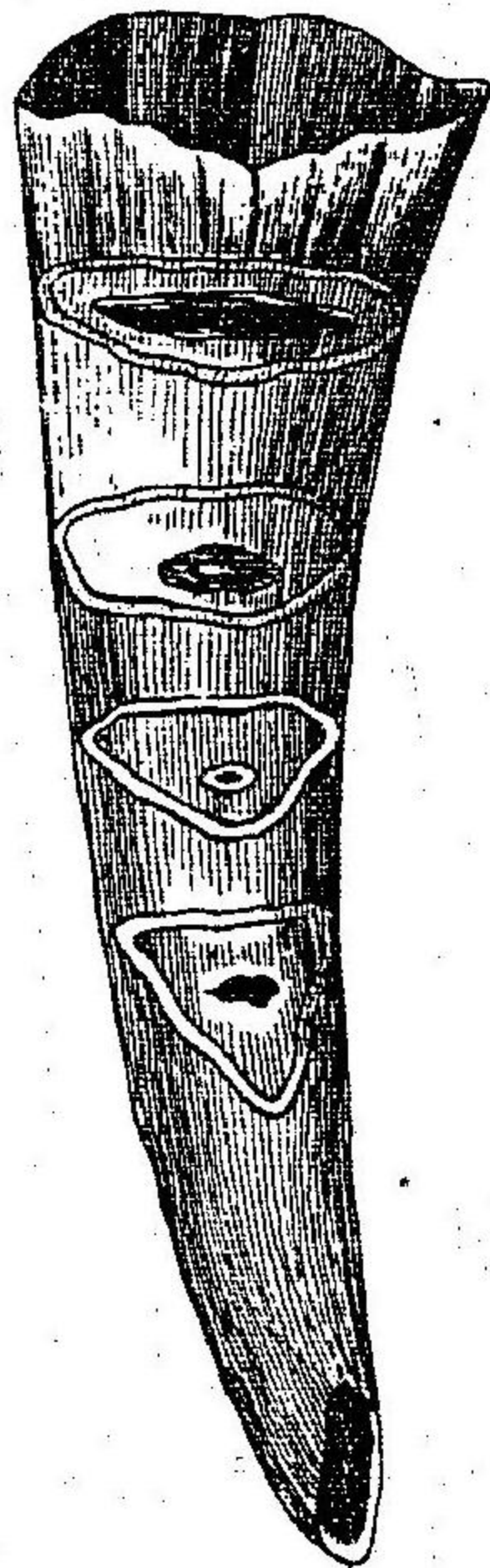


第四圖

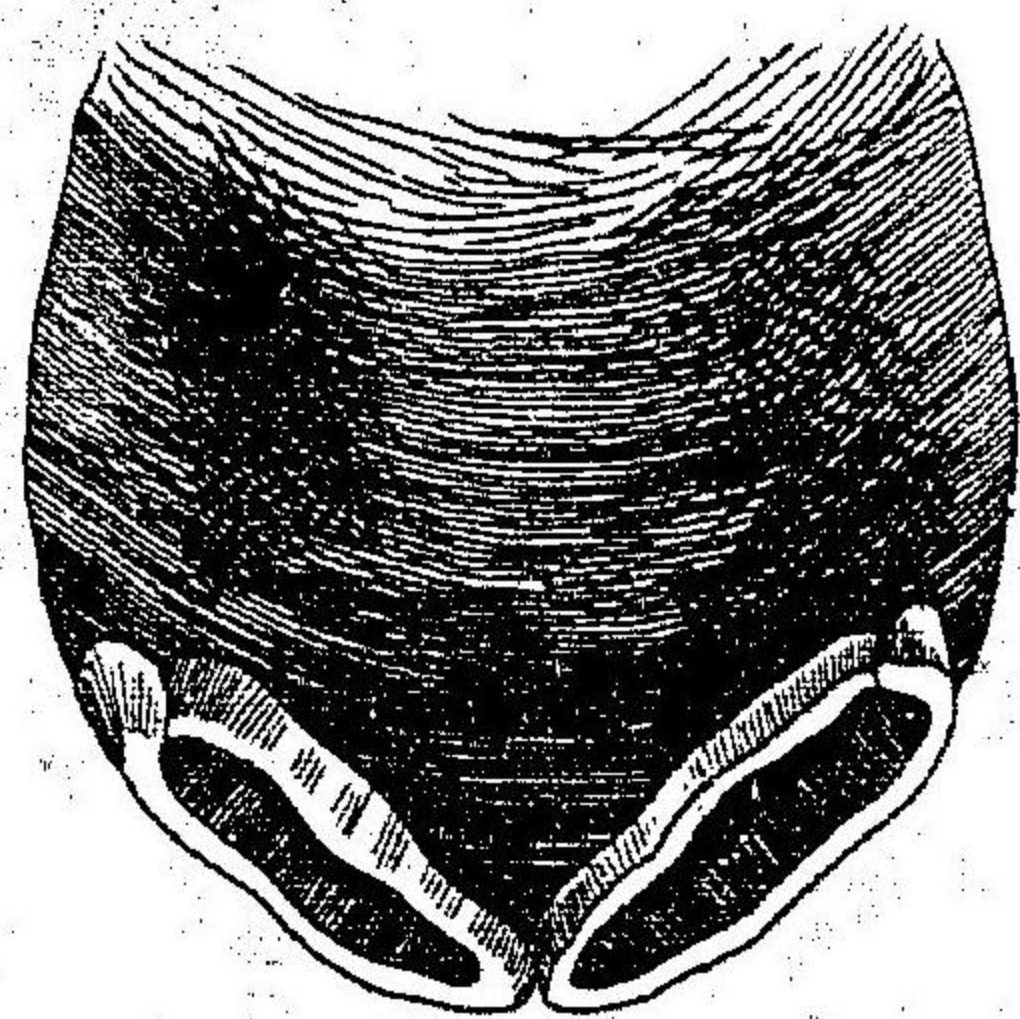
第七圖



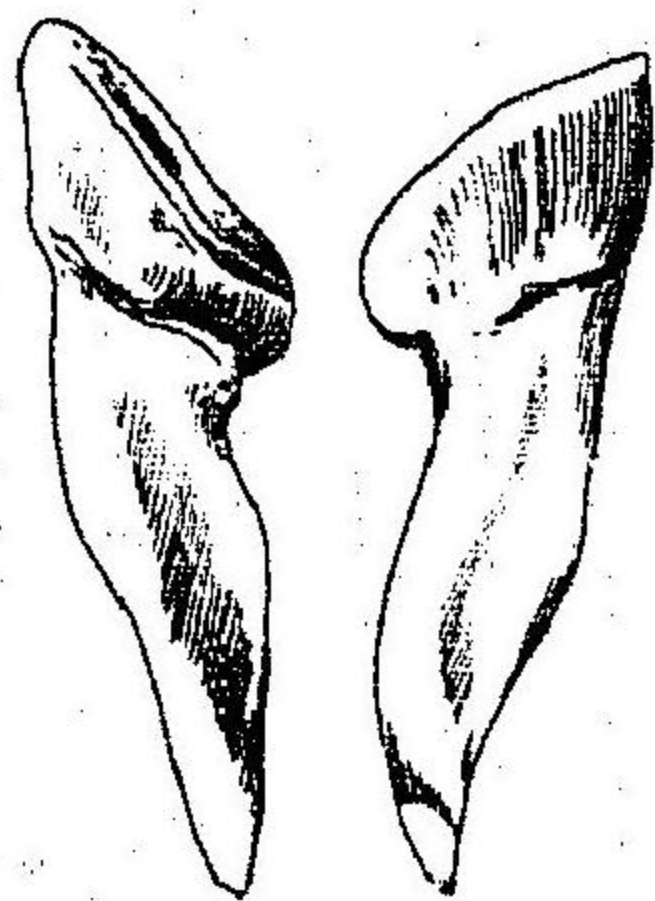
第五圖



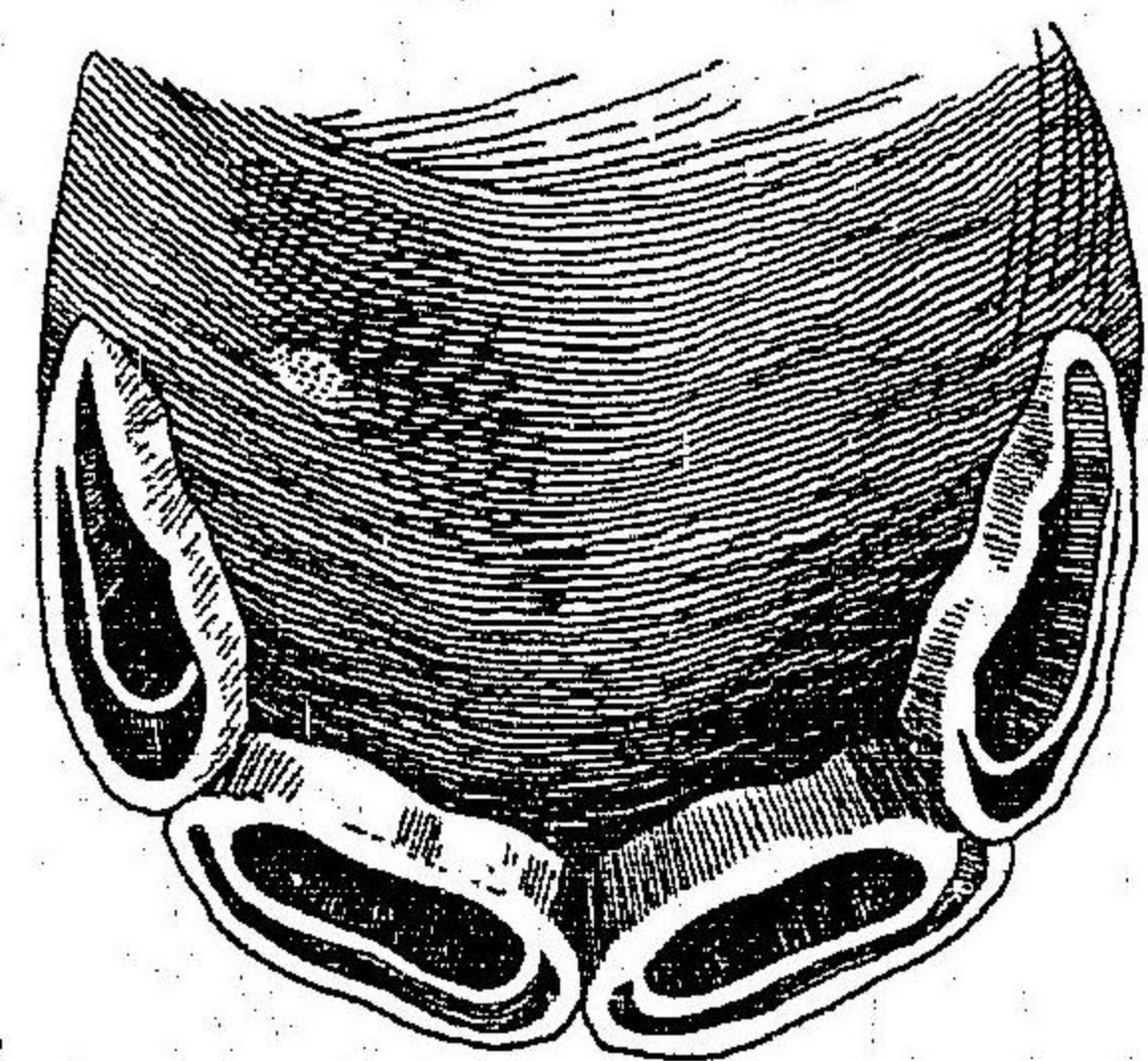
第八圖



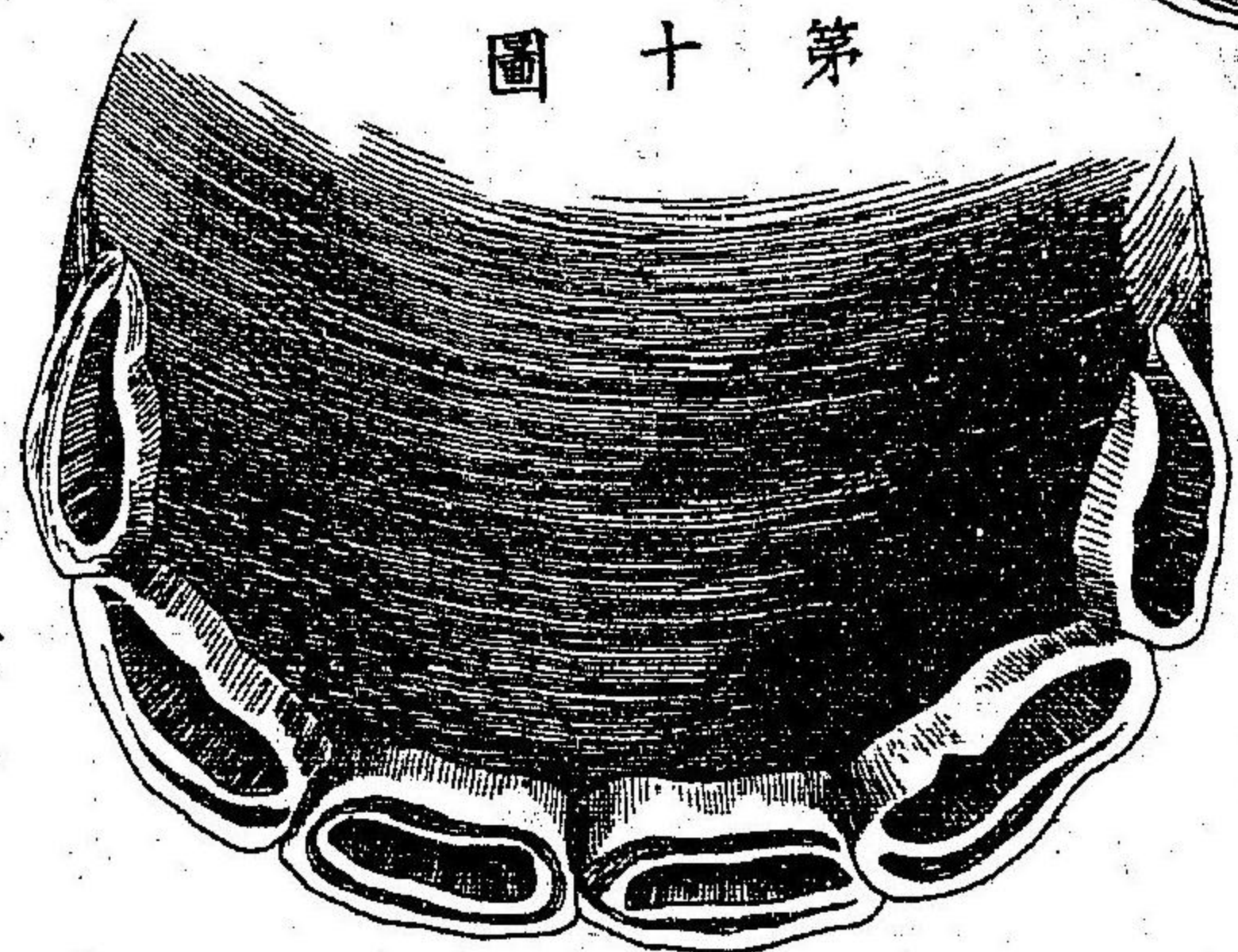
第六圖



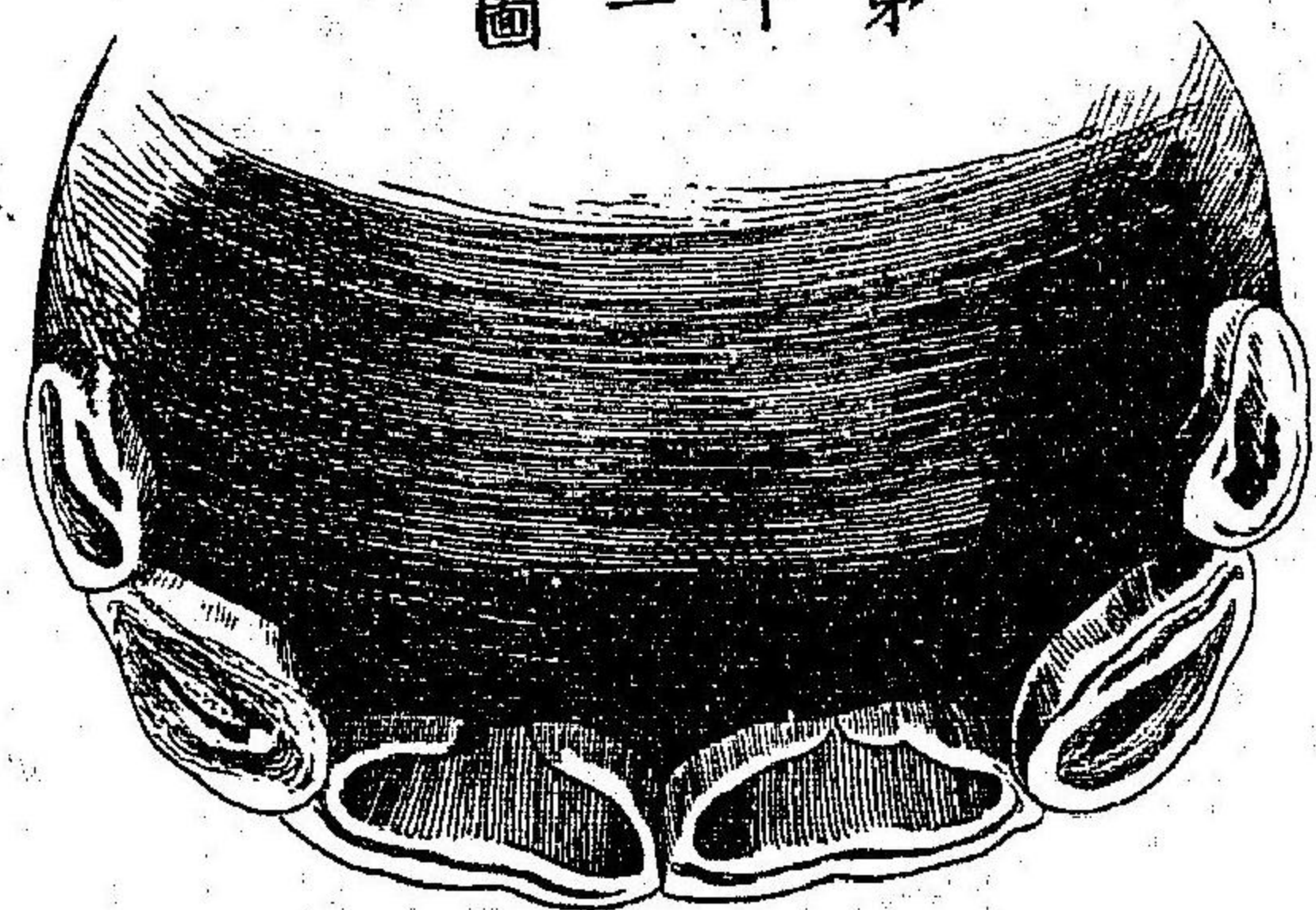
第九圖



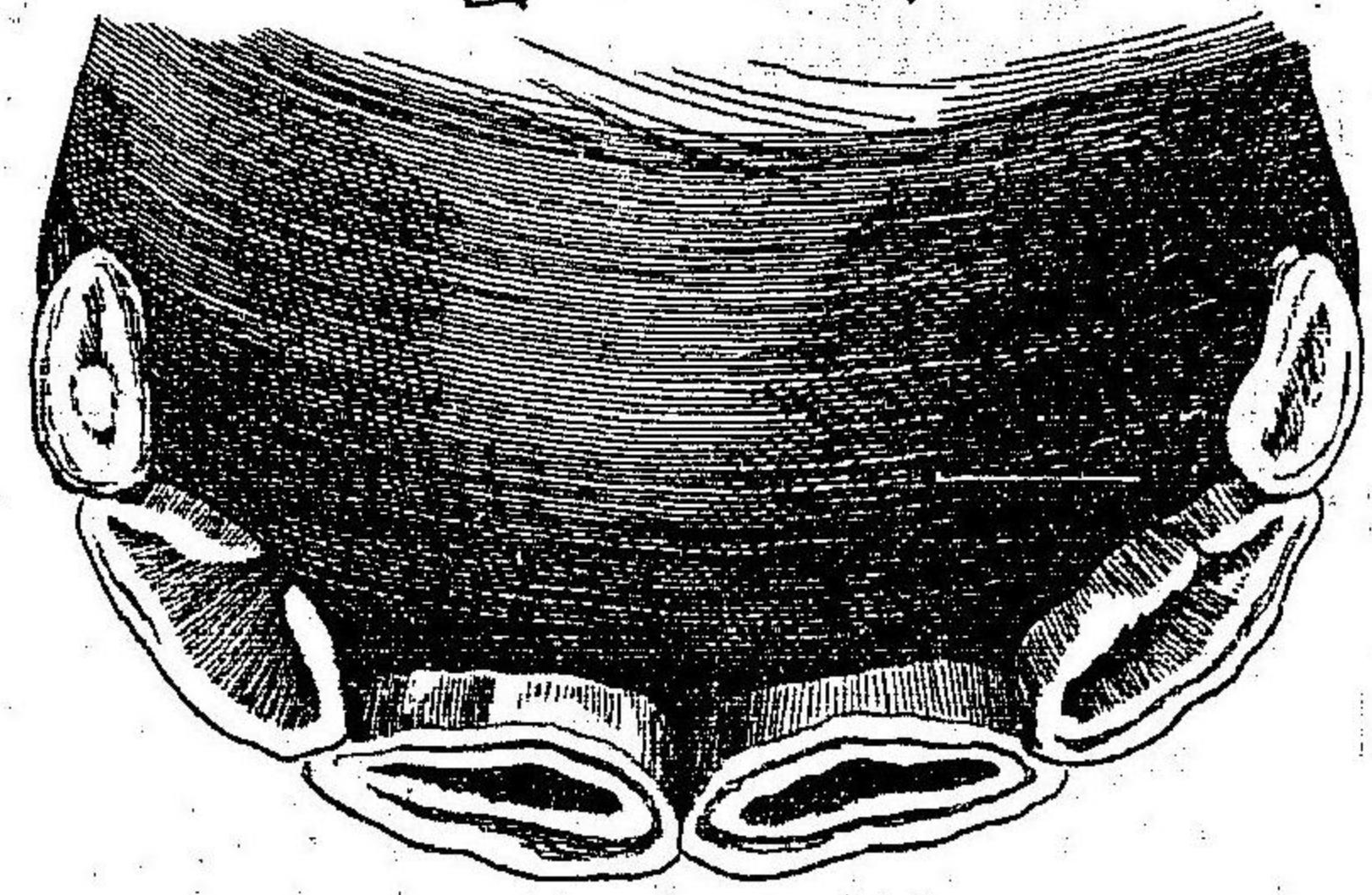
第十圖



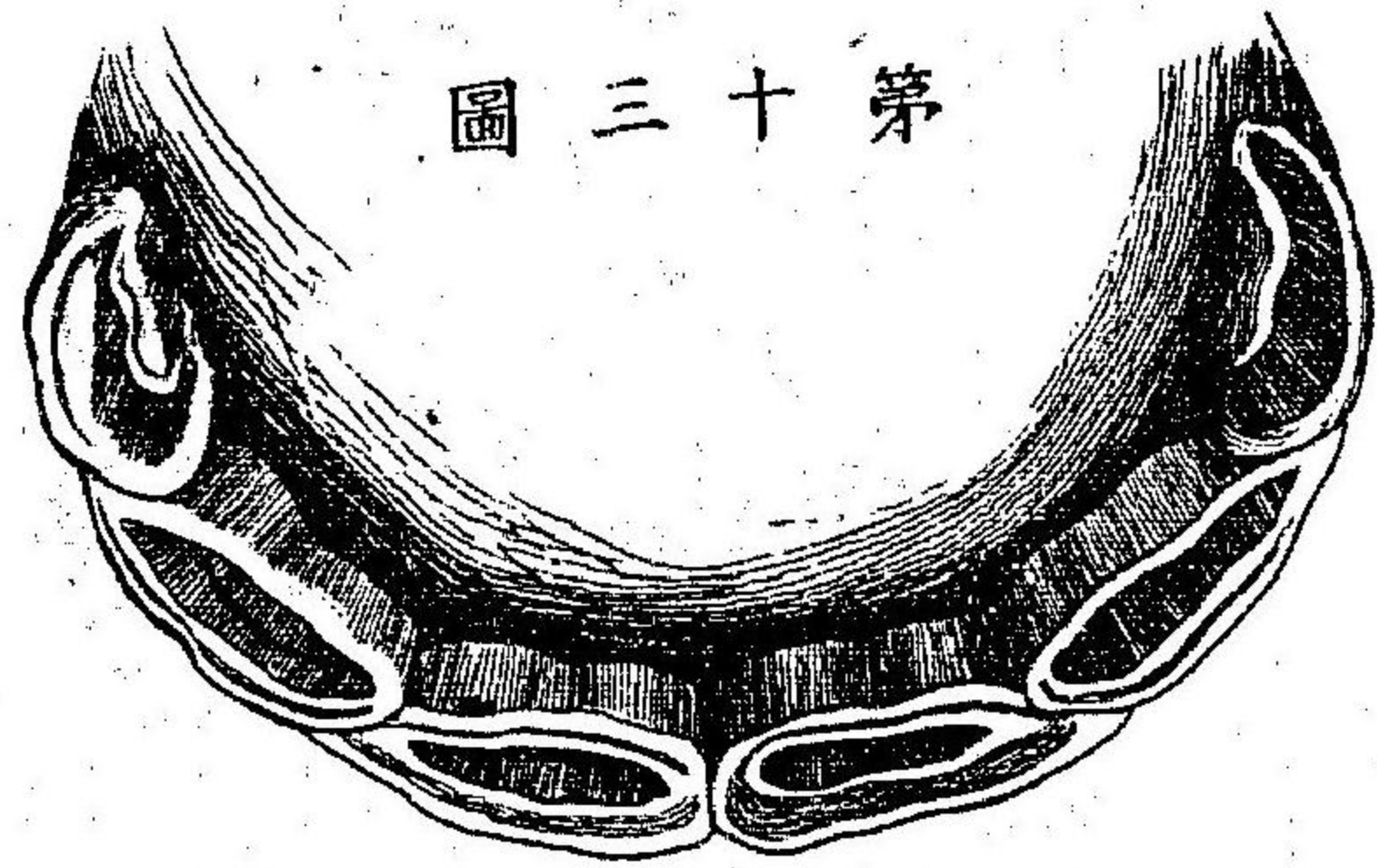
第十一圖



圖二十第



圖三十第



圖四十第

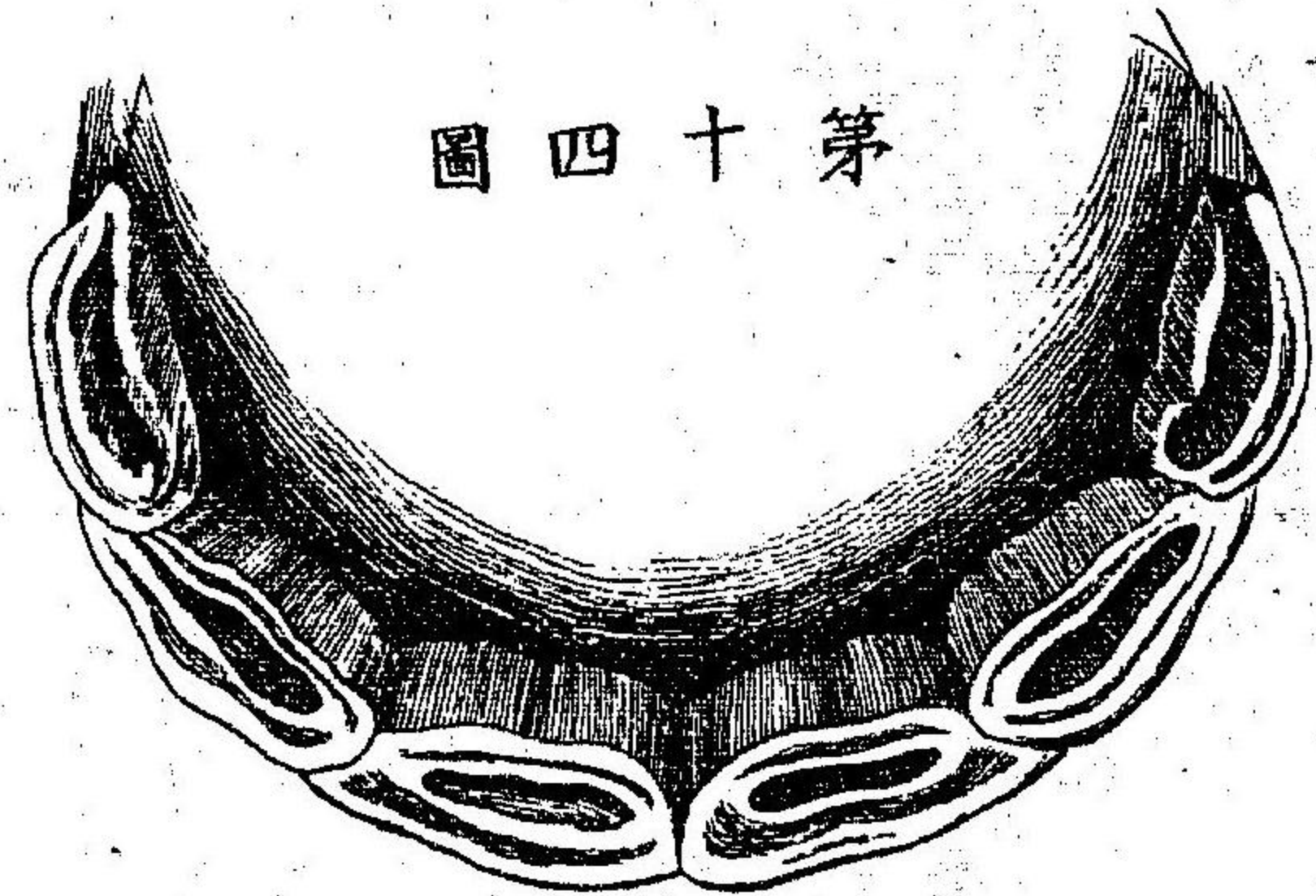


圖 五 十 第

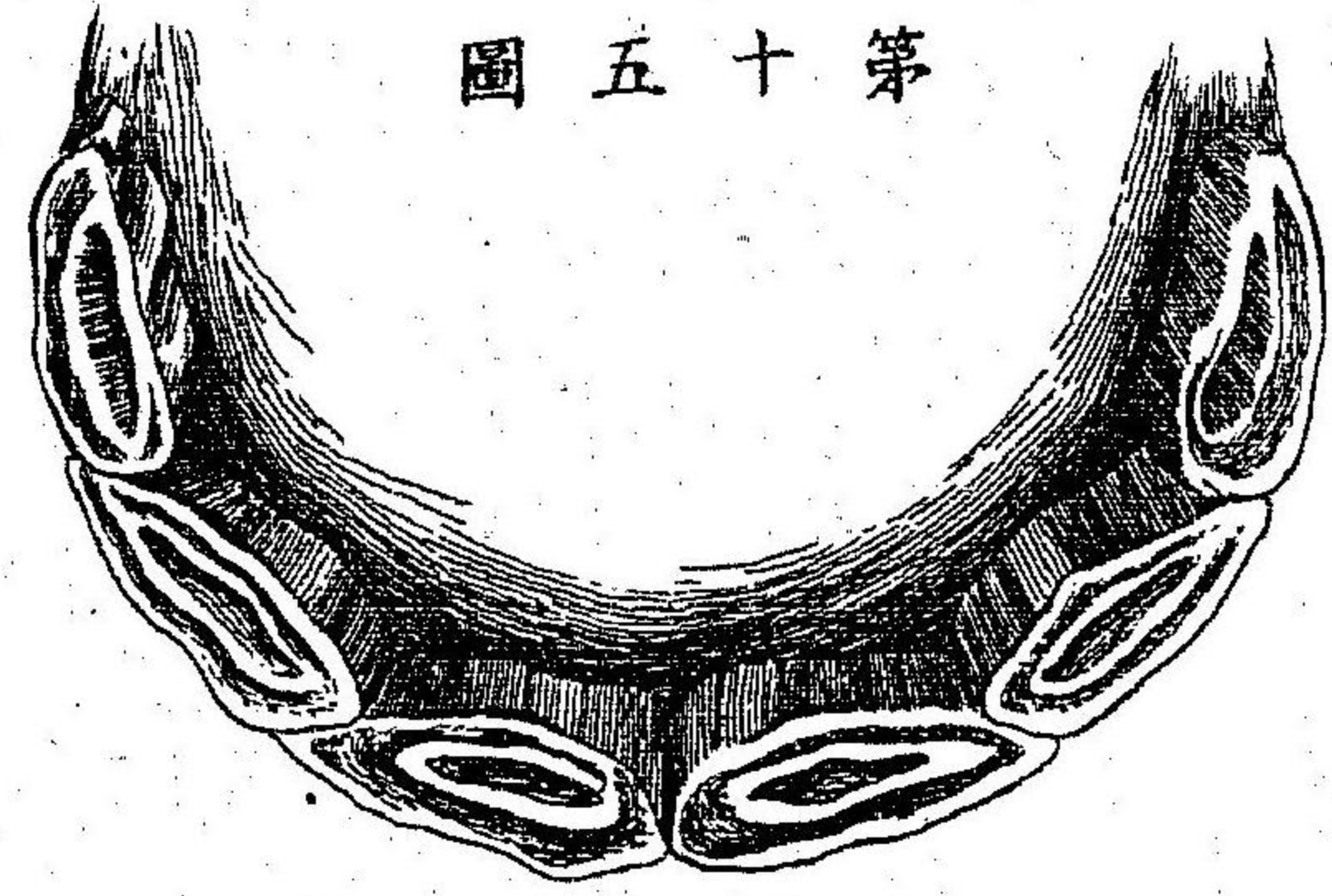


圖 六 十 第

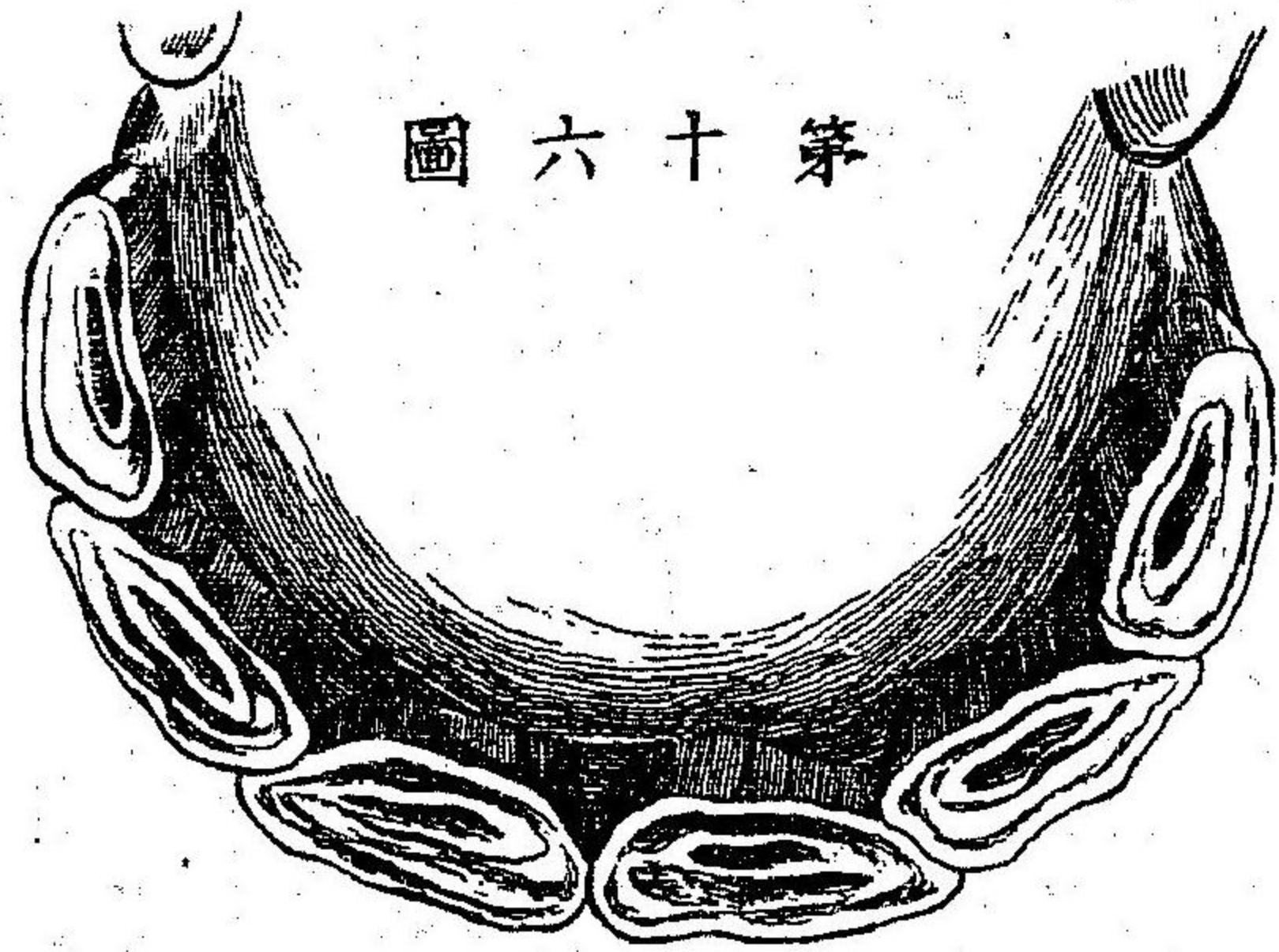
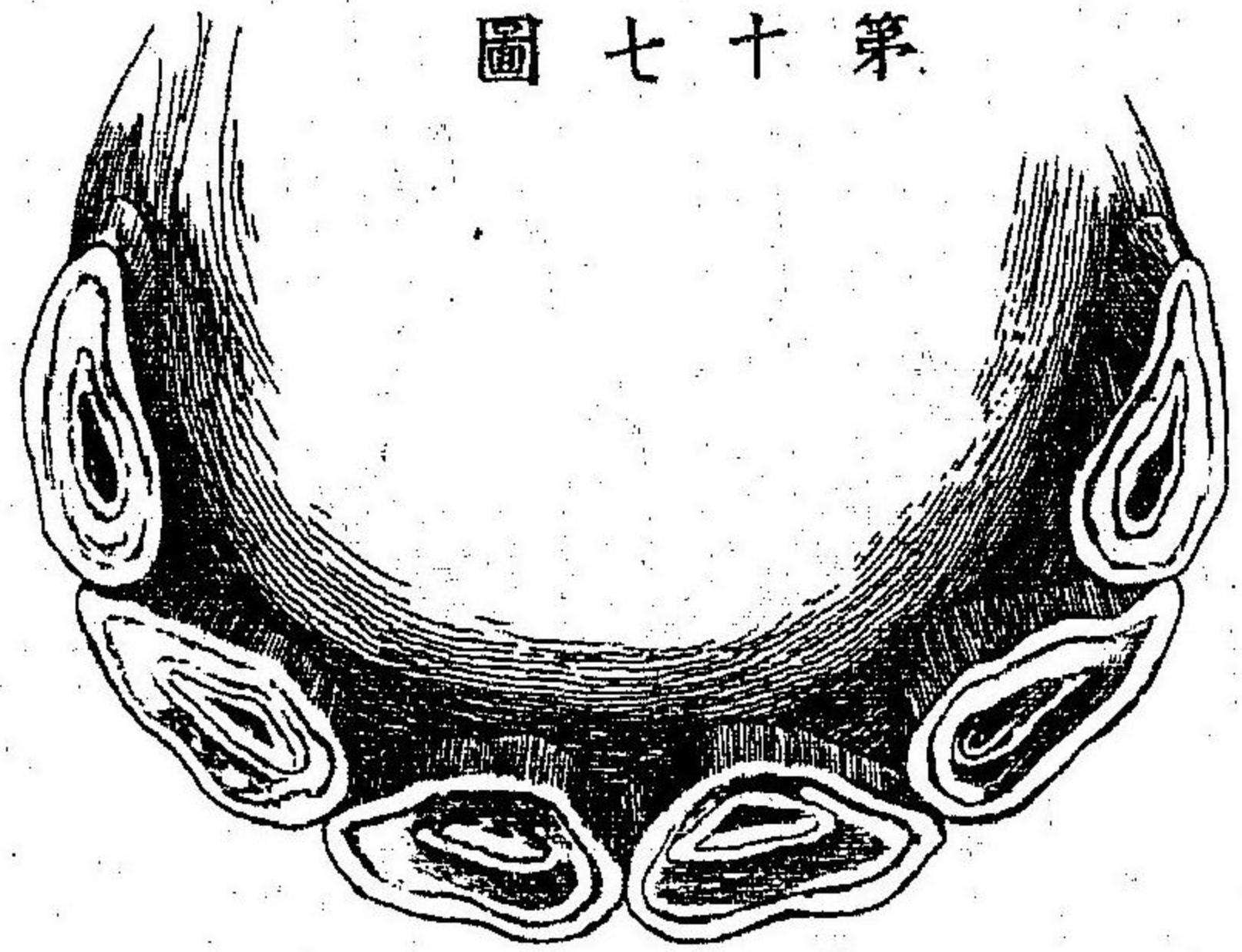
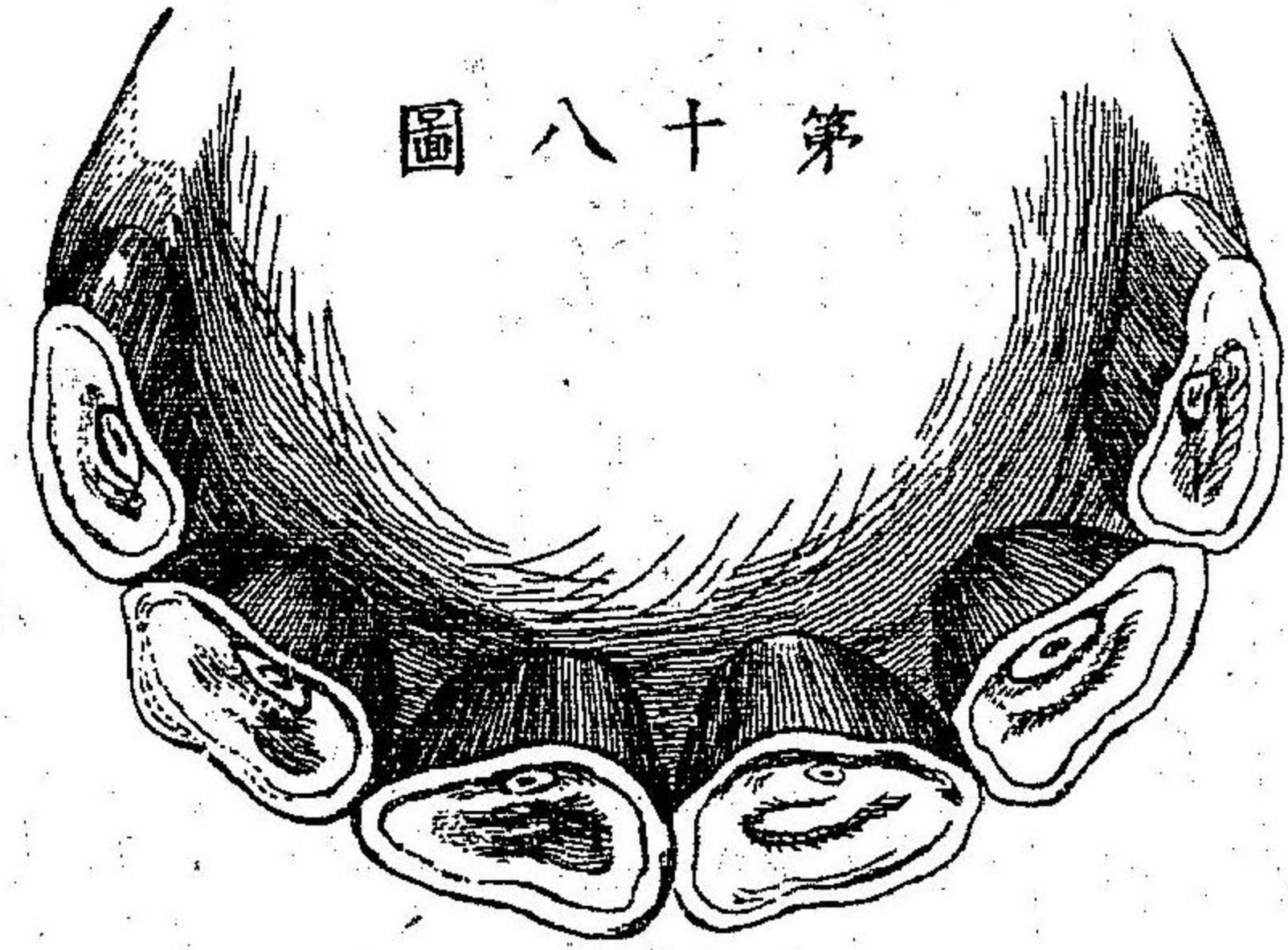


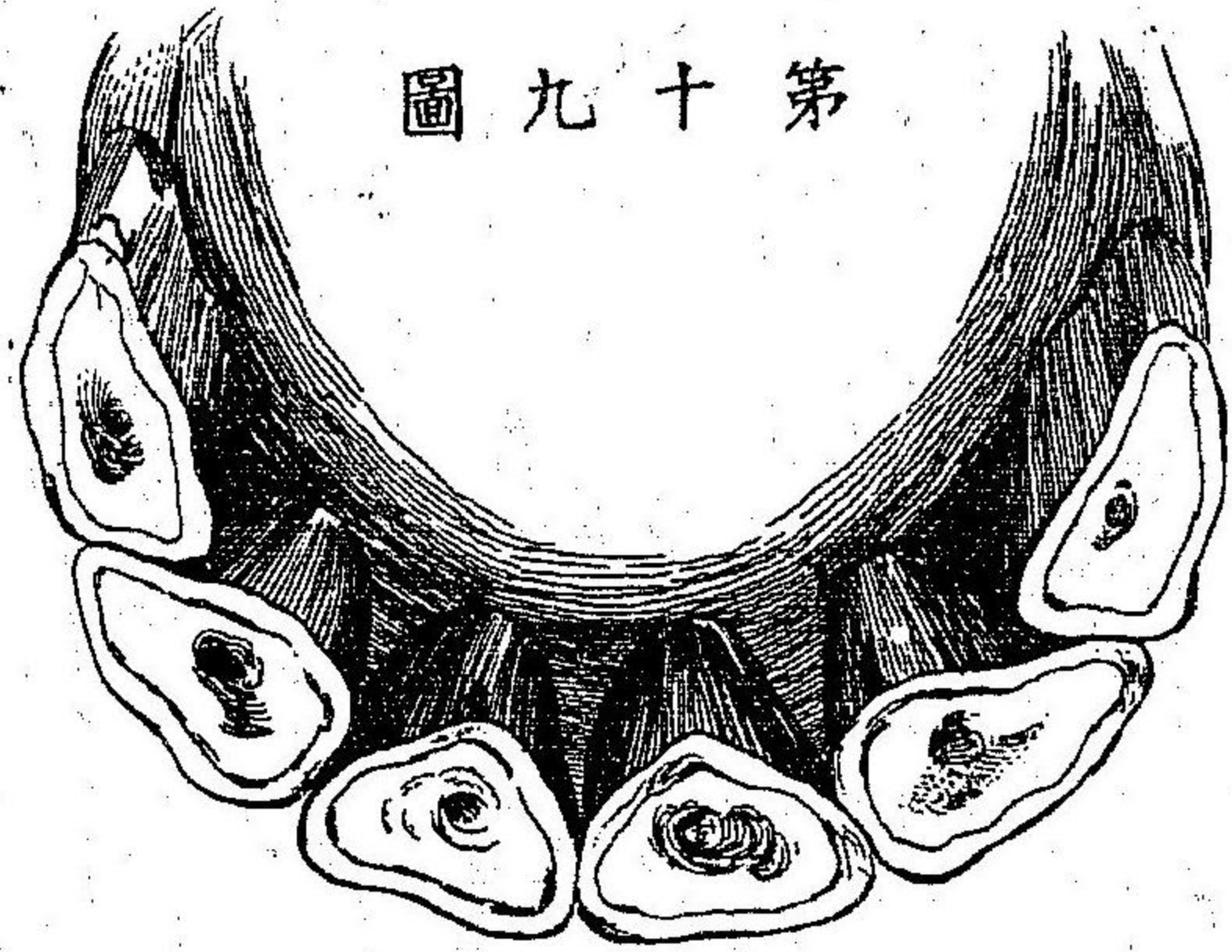
圖 七 十 第



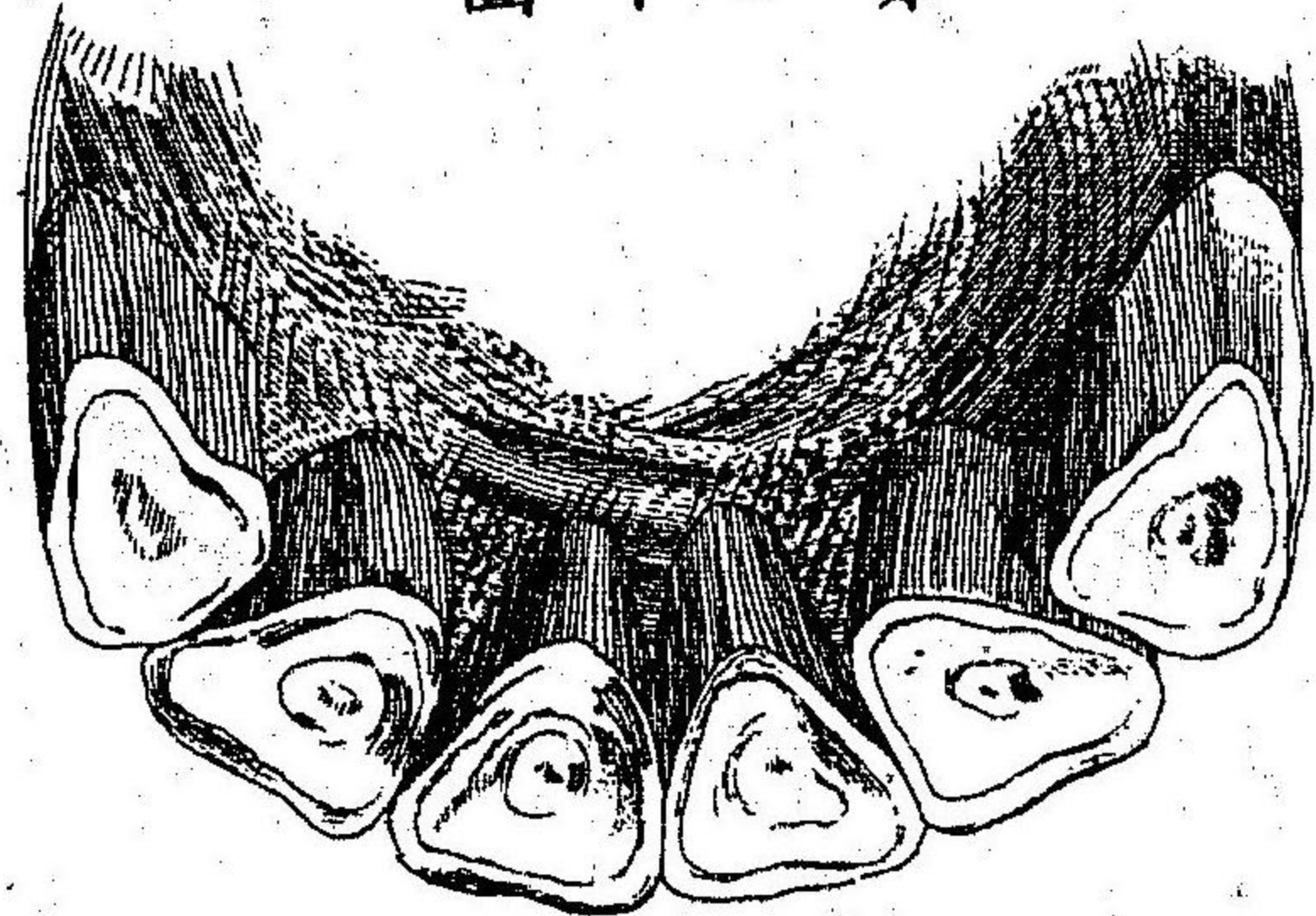
圖八十第



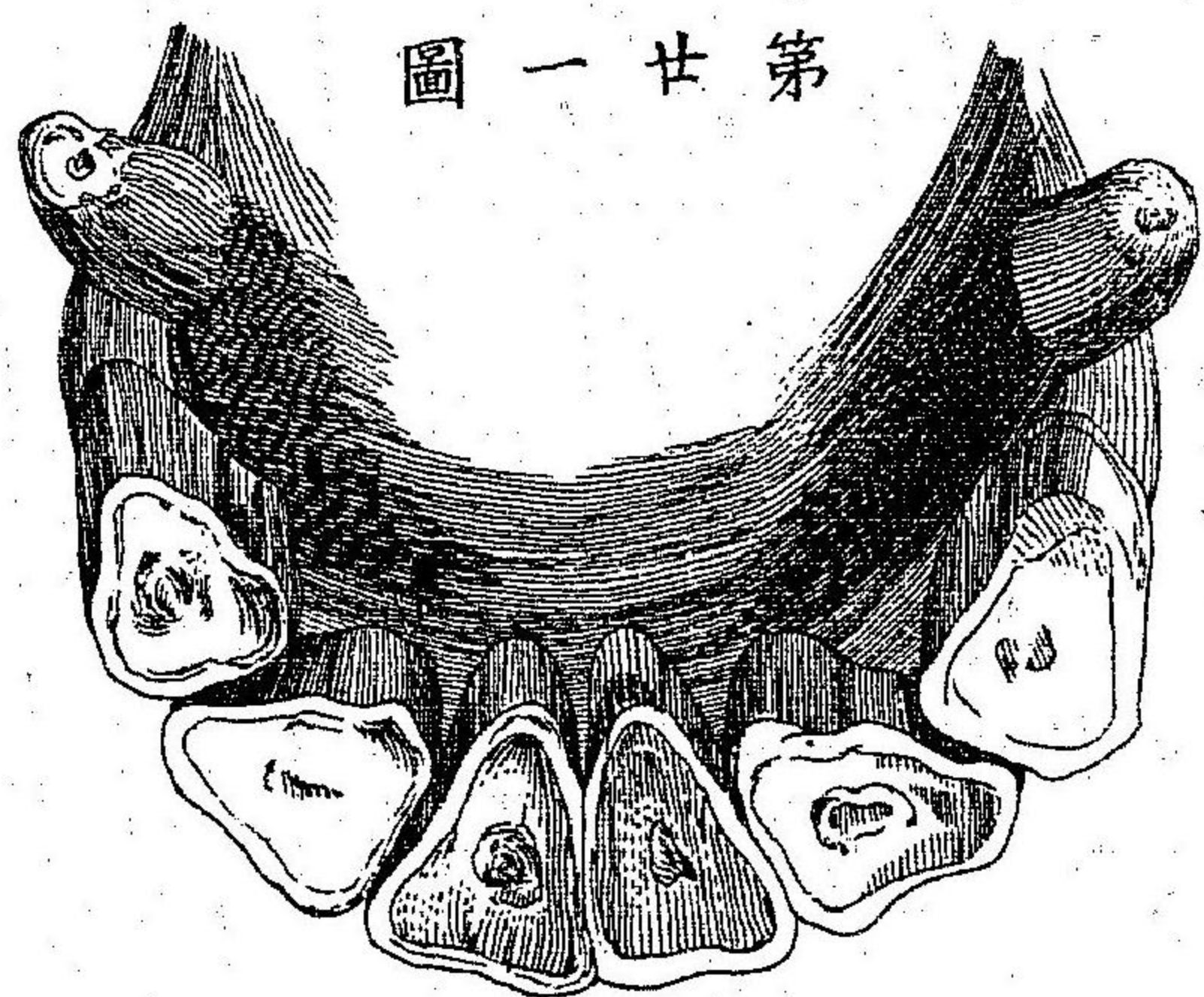
圖九十第



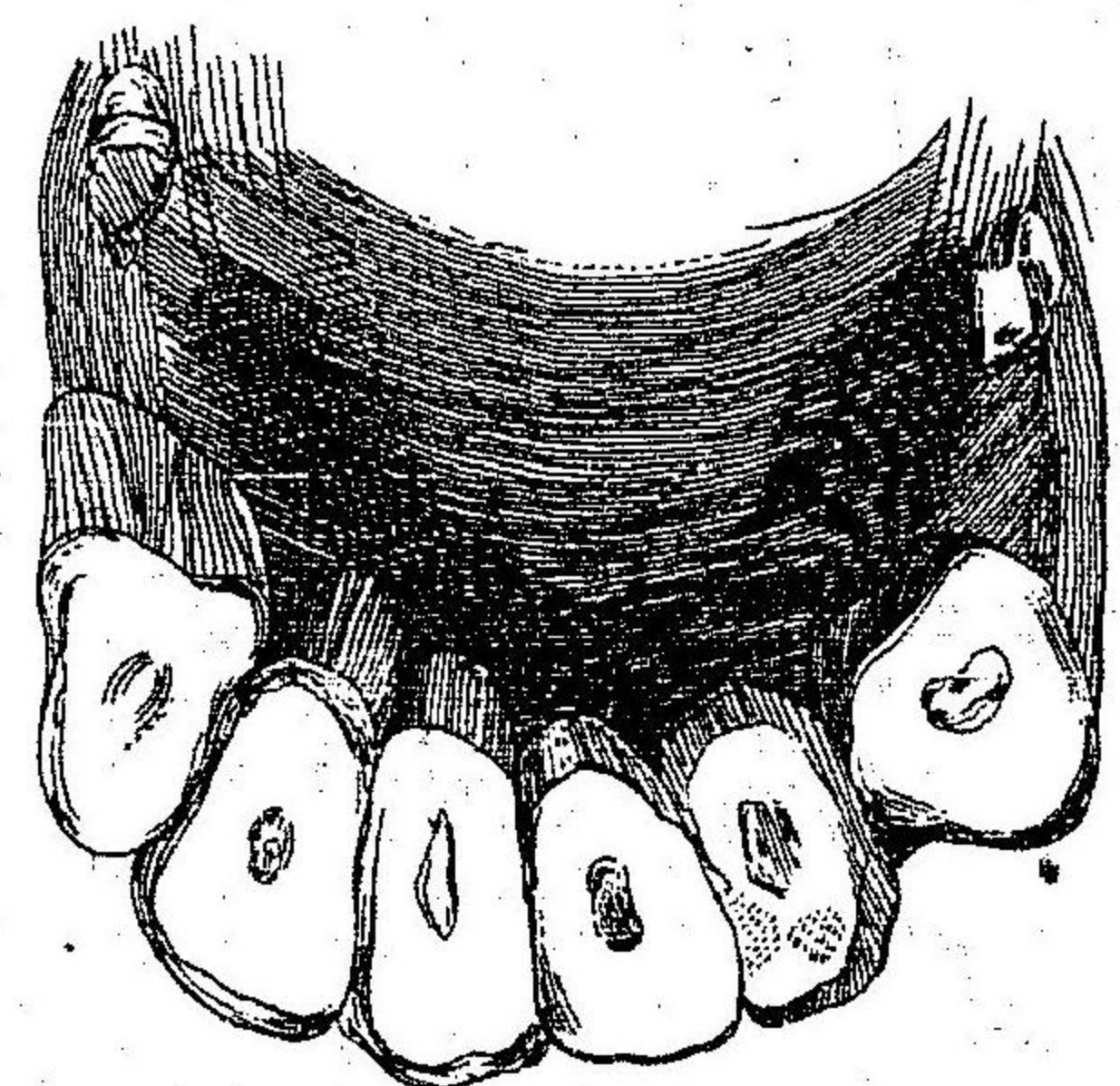
圖十二第



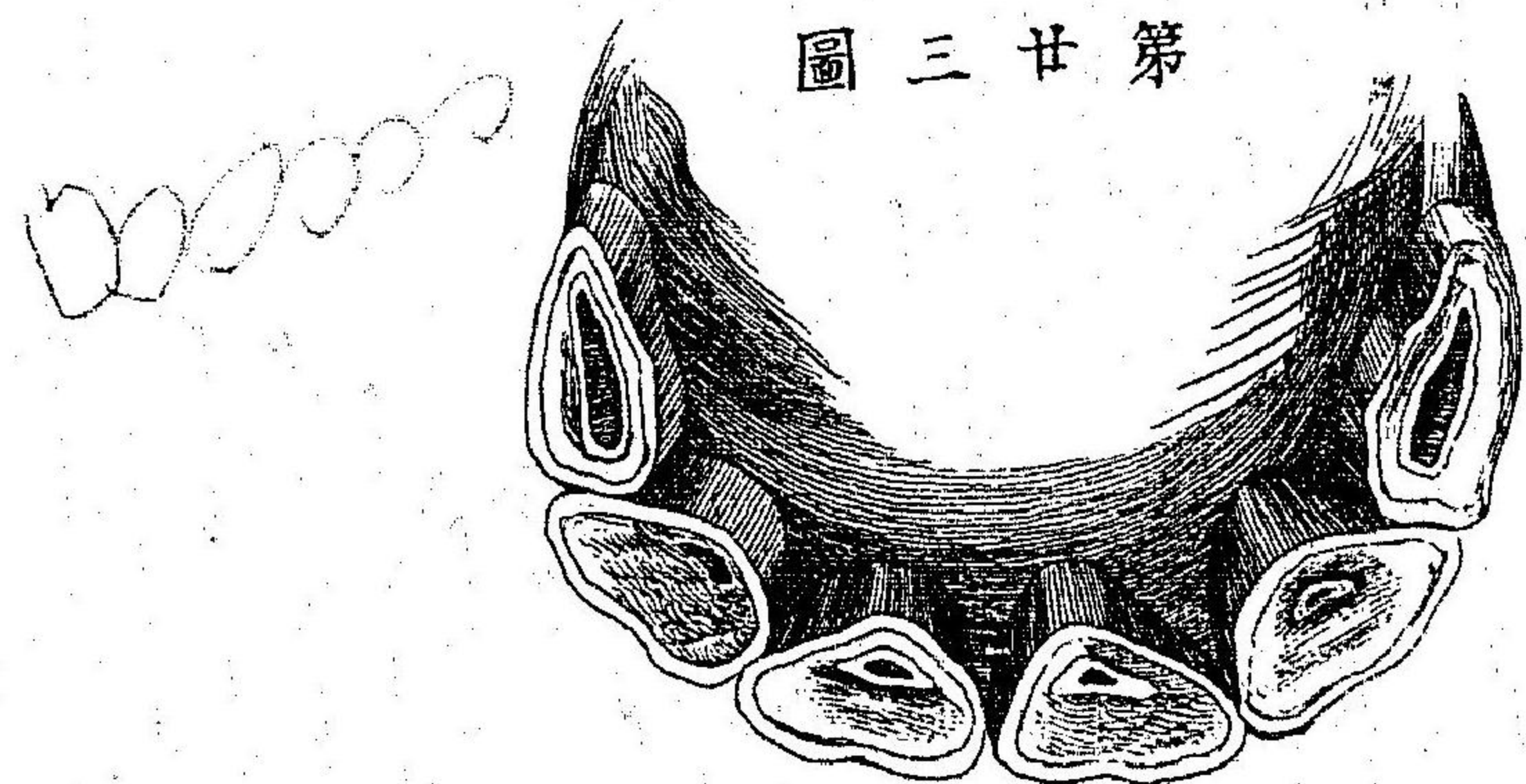
第廿一圖



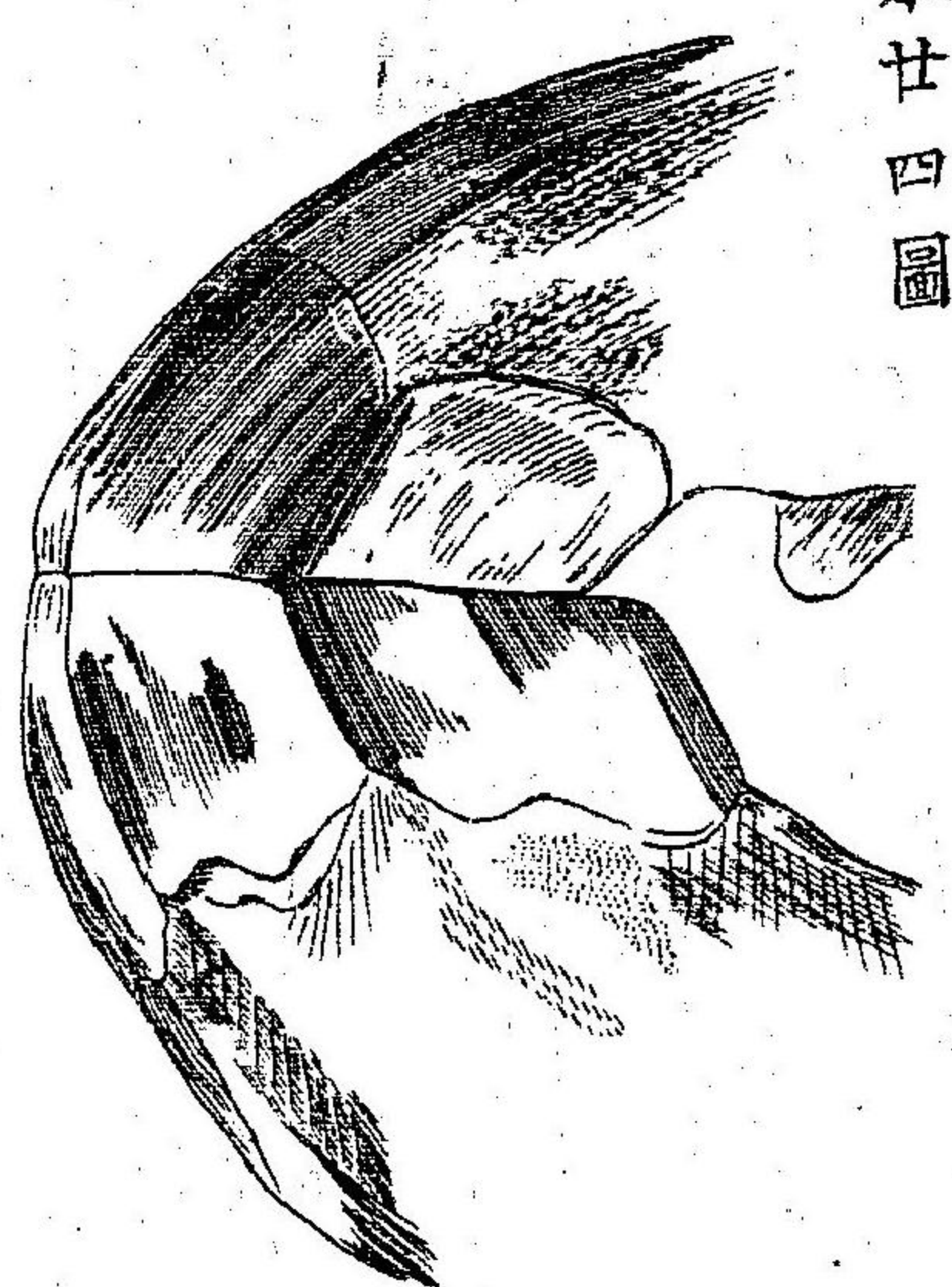
第廿二圖



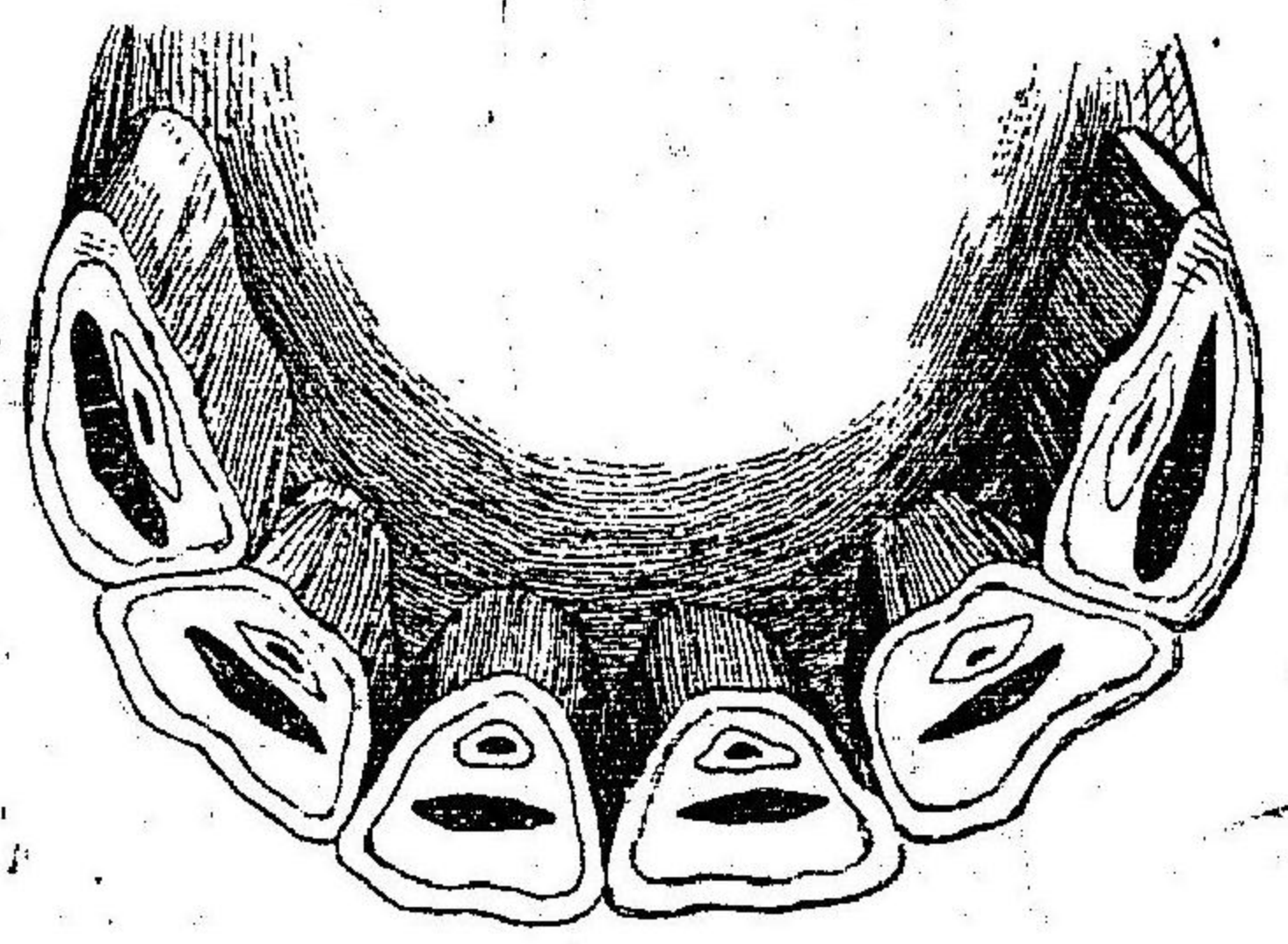
第廿三圖



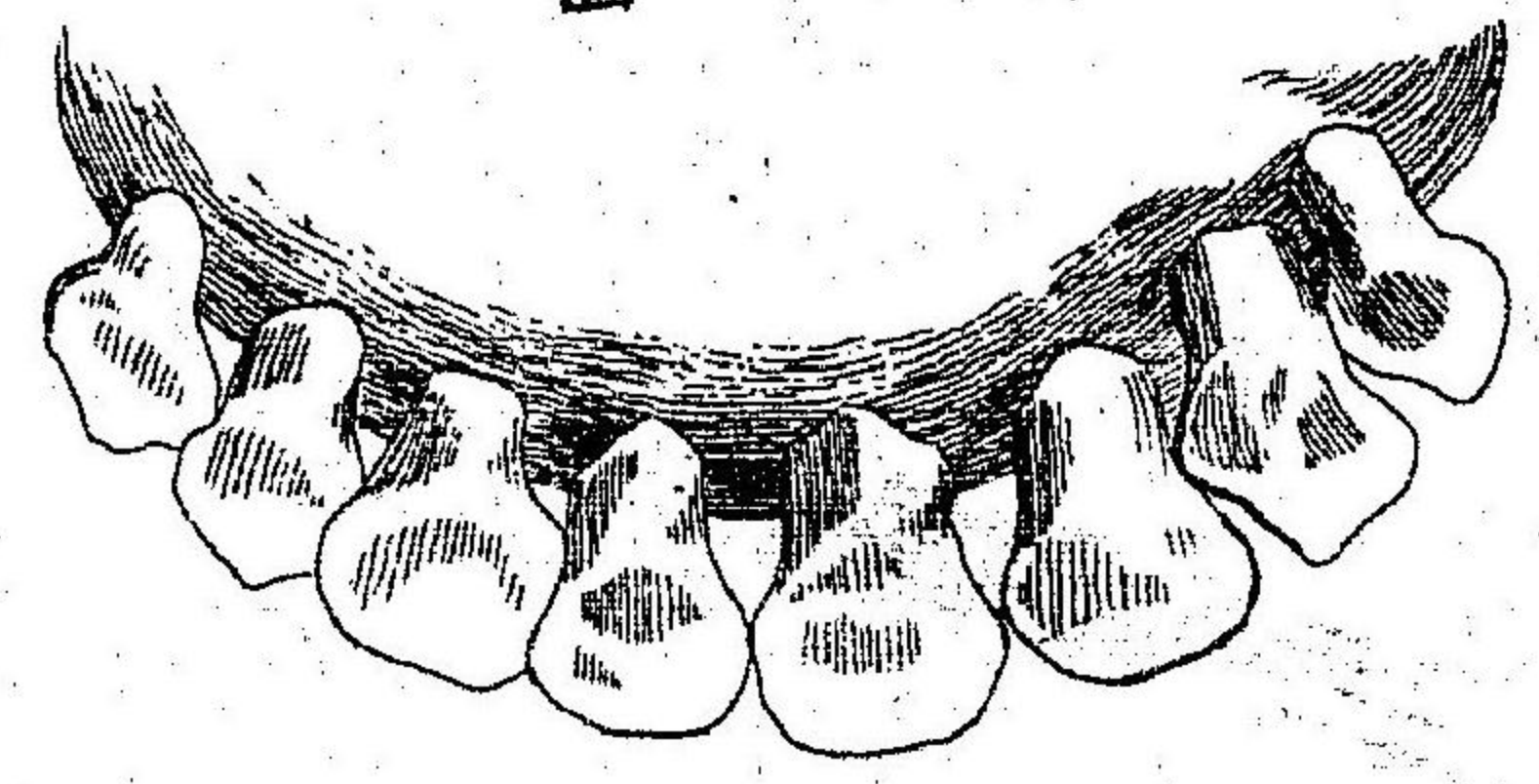
第廿四圖



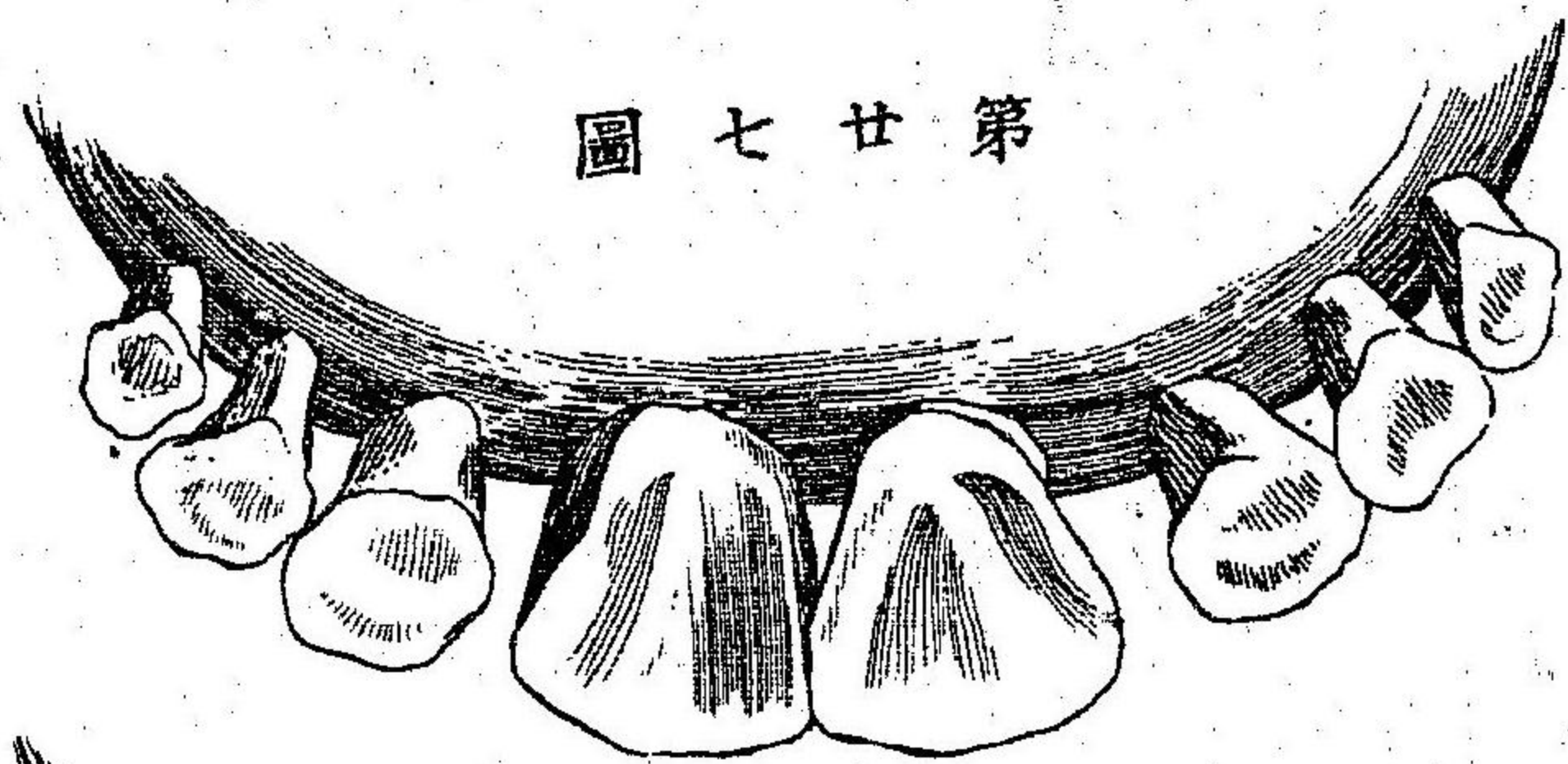
第廿五圖



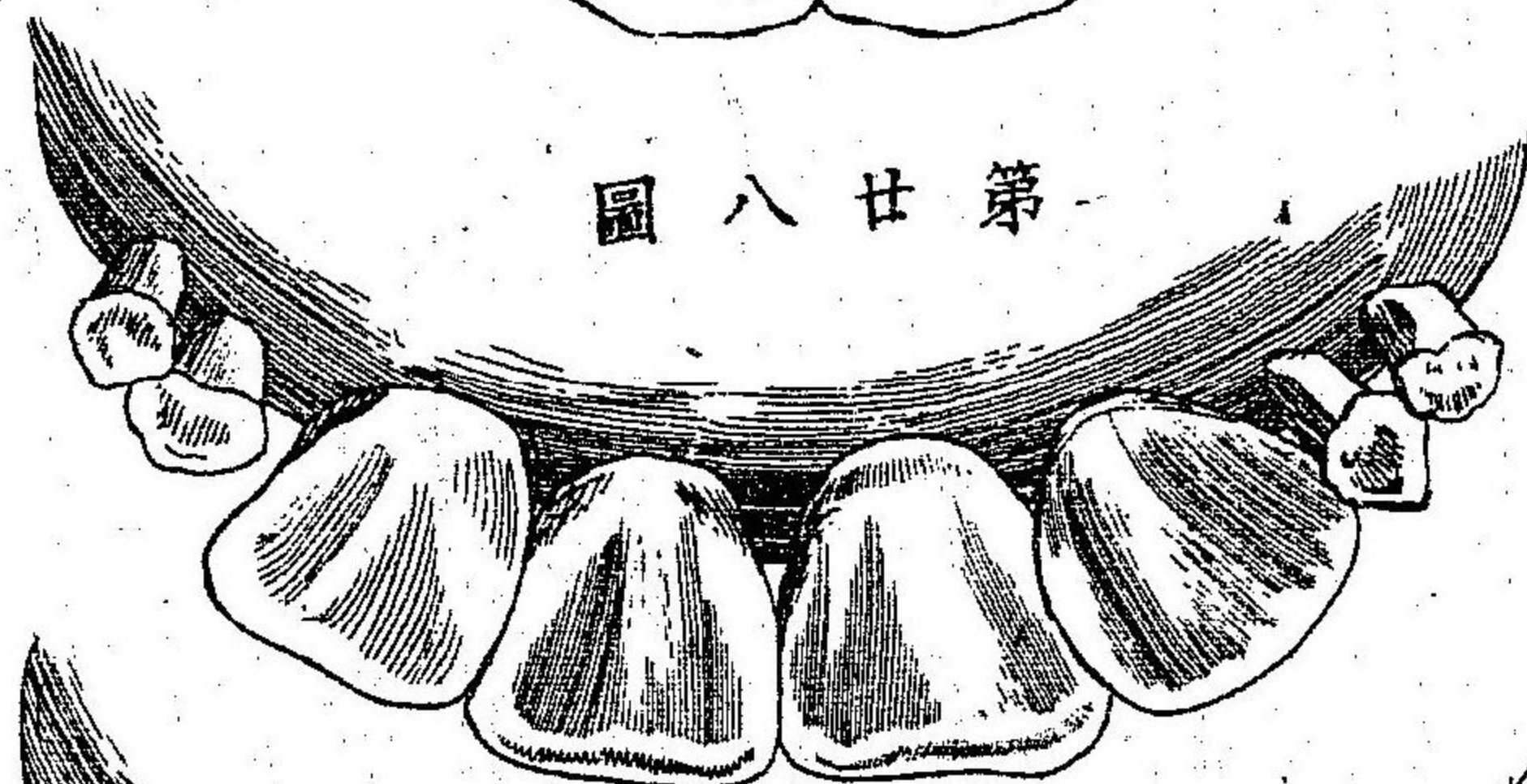
第廿六圖



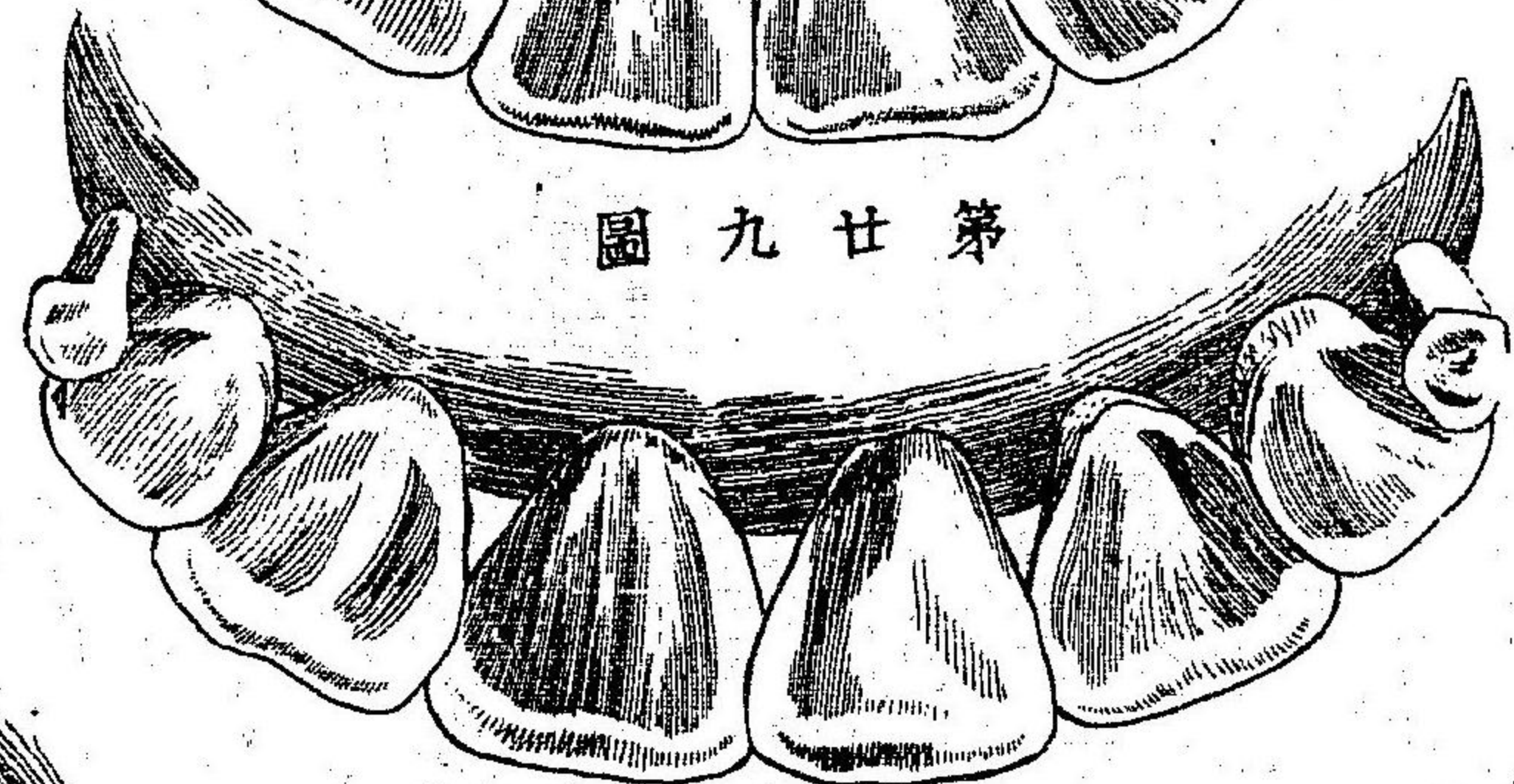
圖七廿第



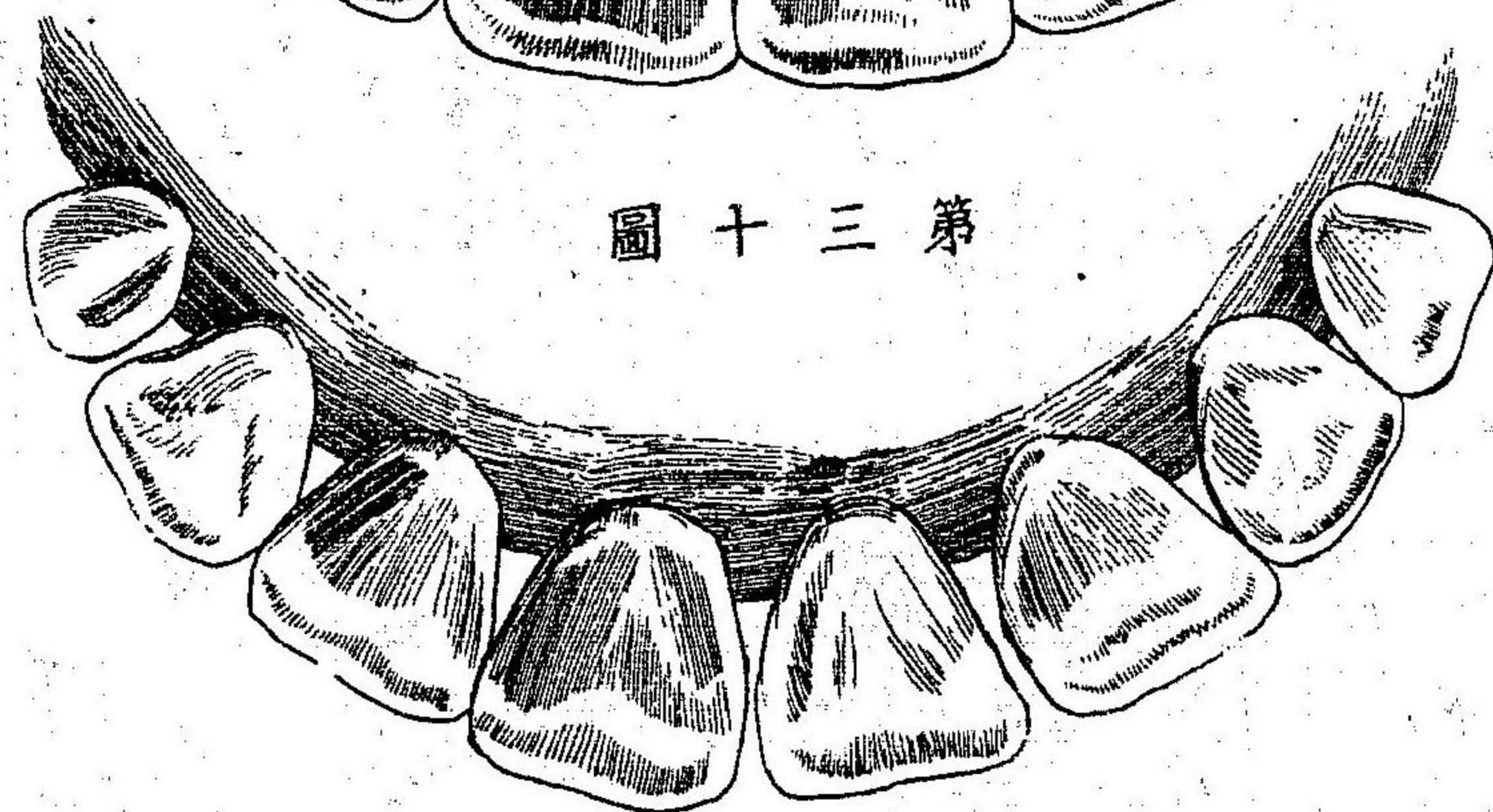
圖八廿第



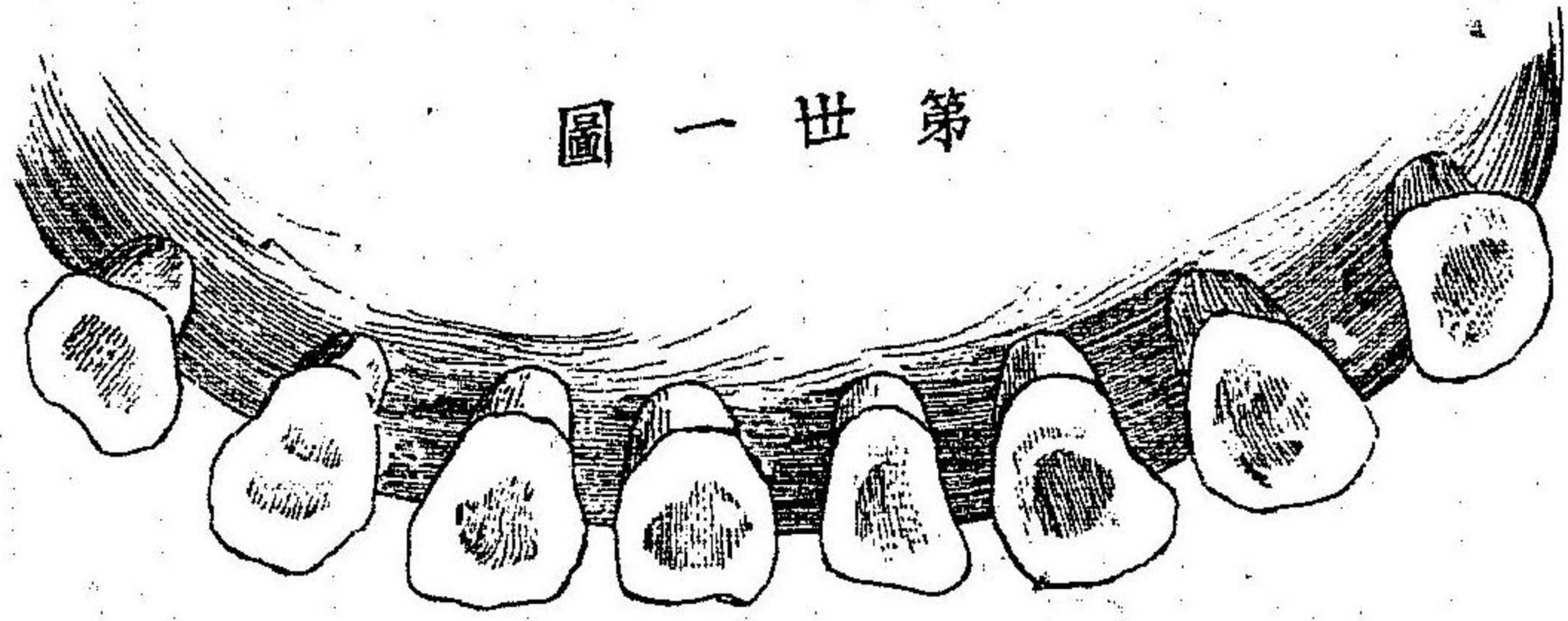
圖九廿第



圖十三第

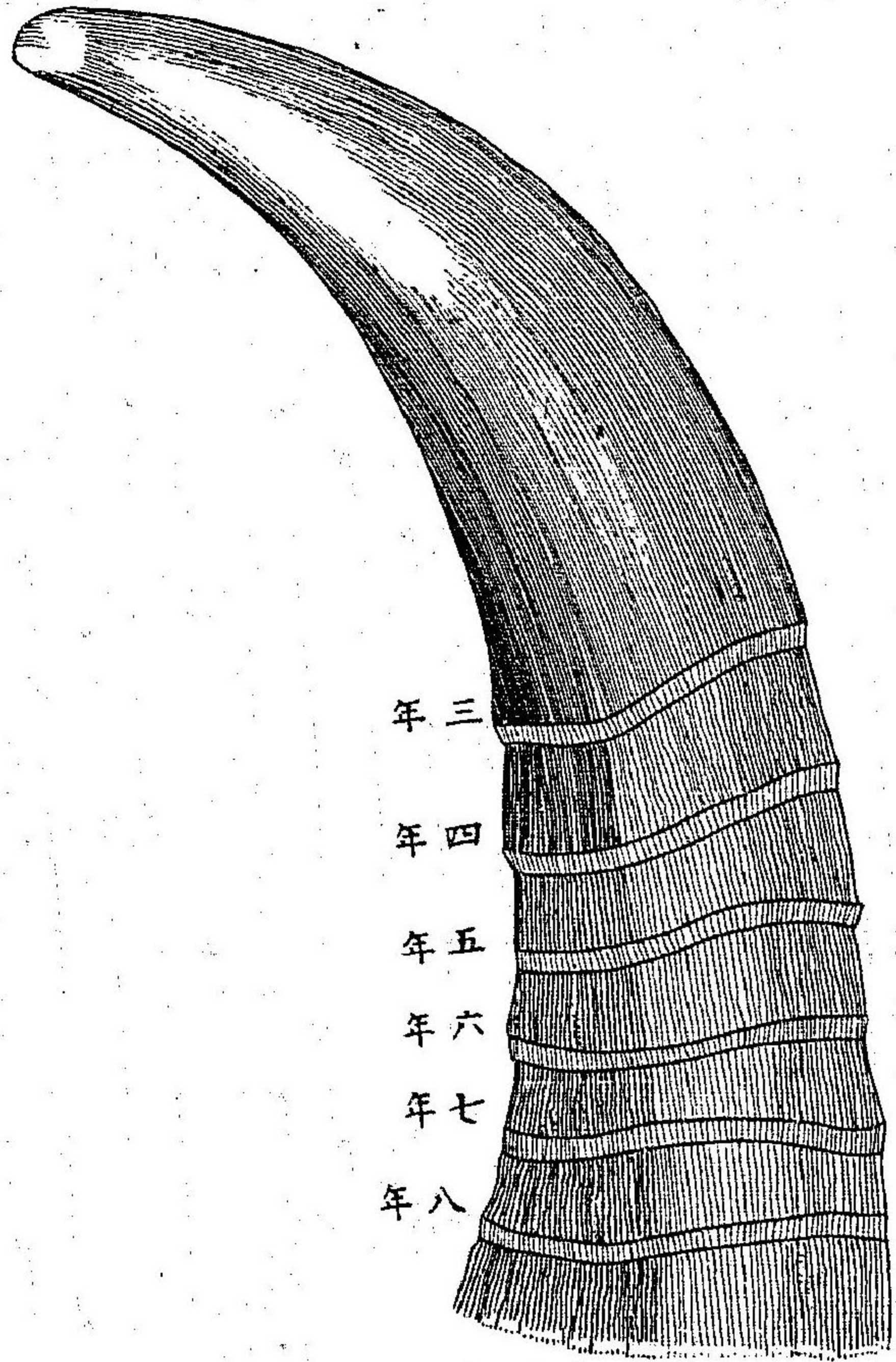


圖一 世第

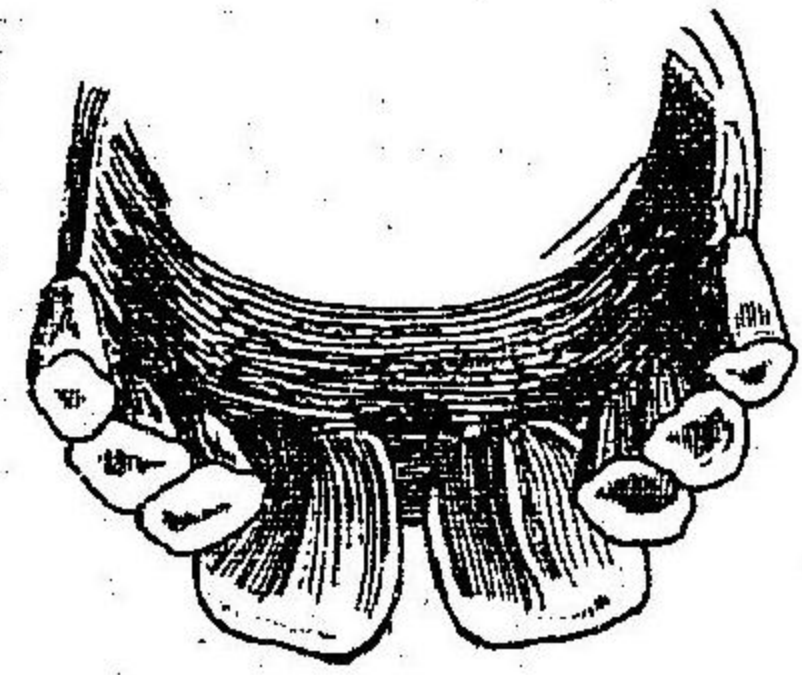


第 世 二 圖

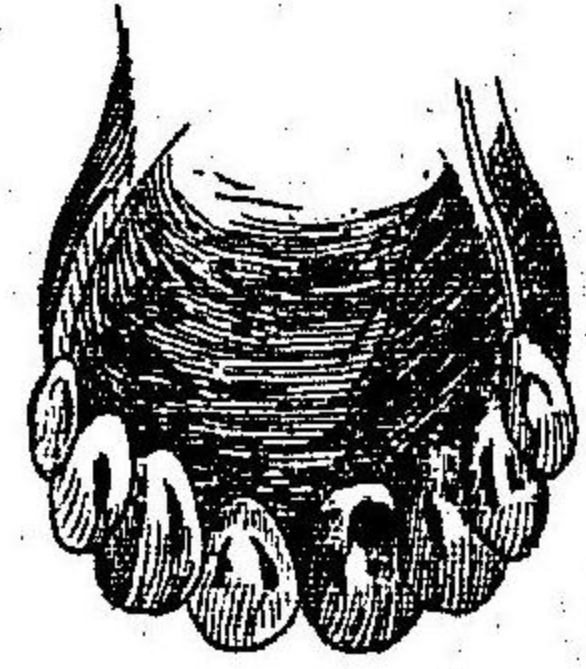
年 三
年 四
年 五
年 六
年 七
年 八



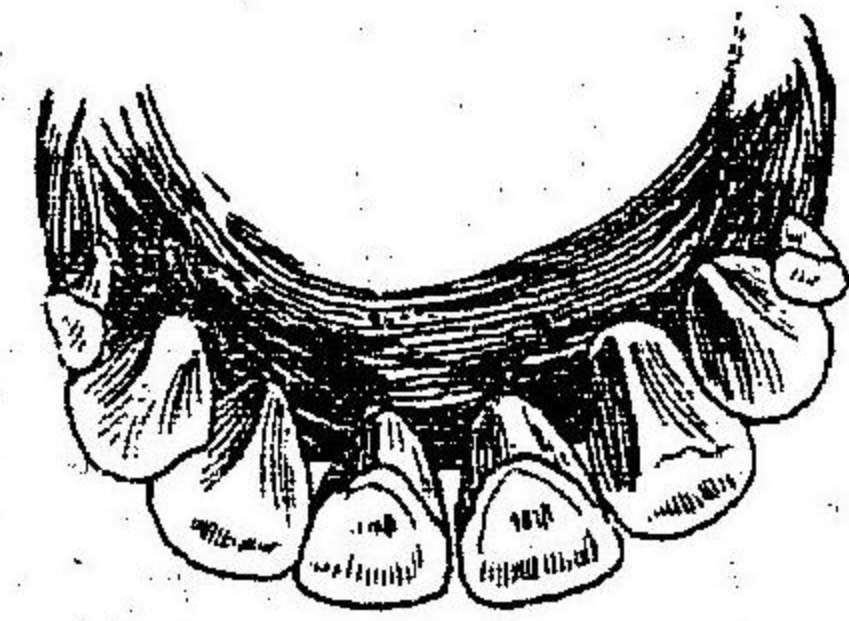
圖四世第



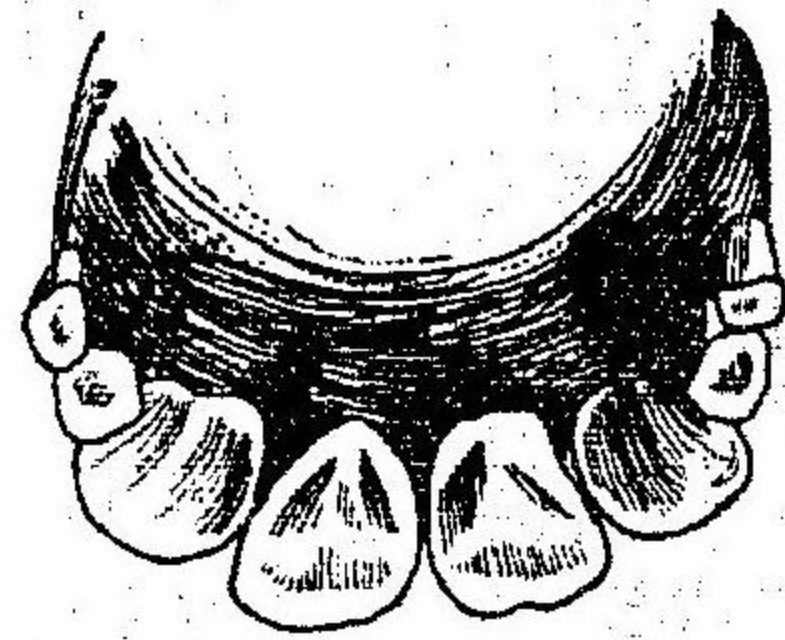
圖三世第



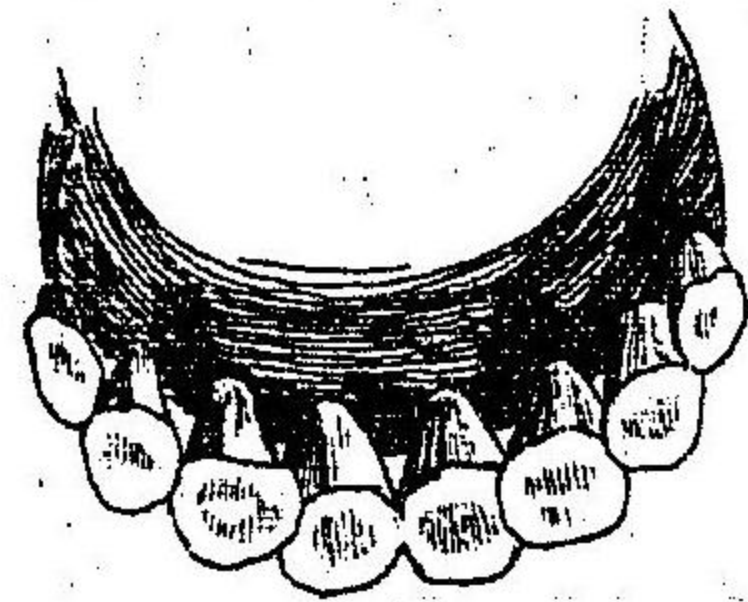
圖六世第



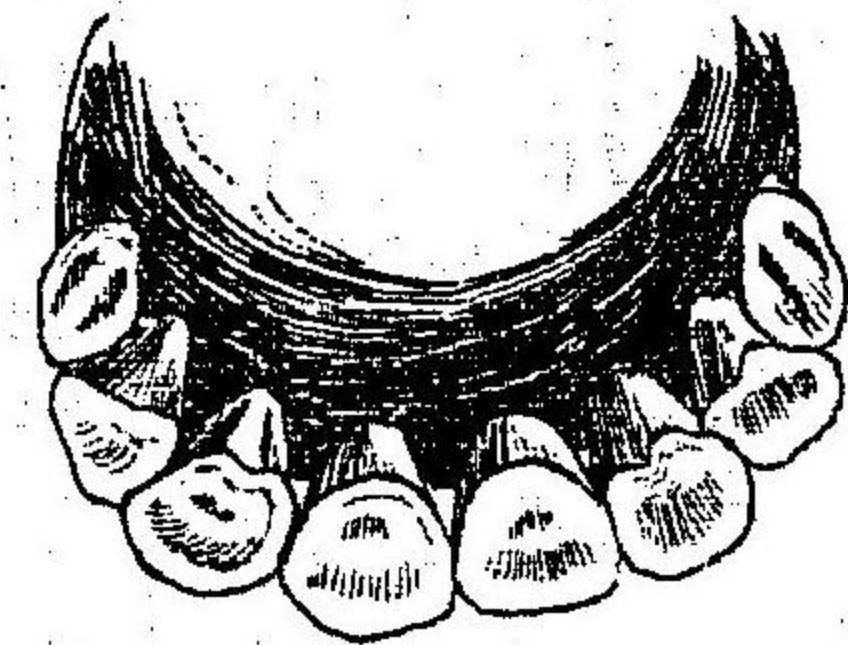
圖五世第



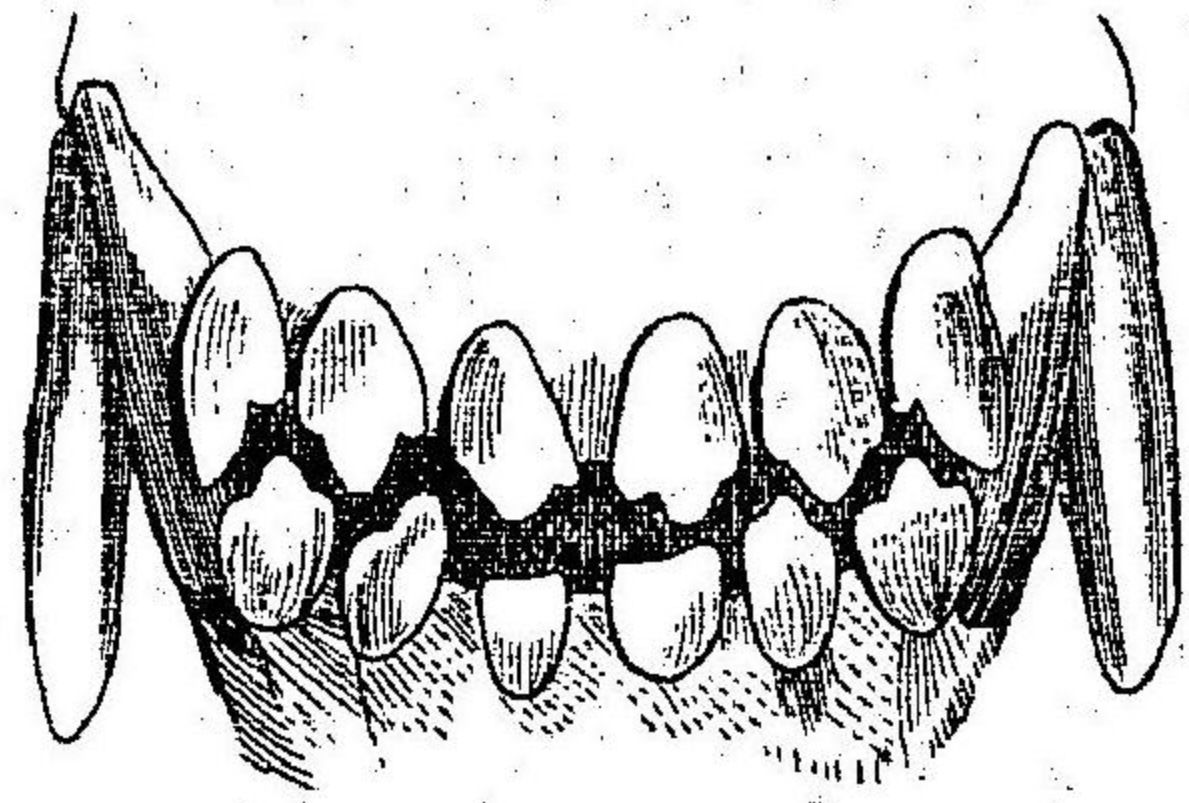
圖八世第



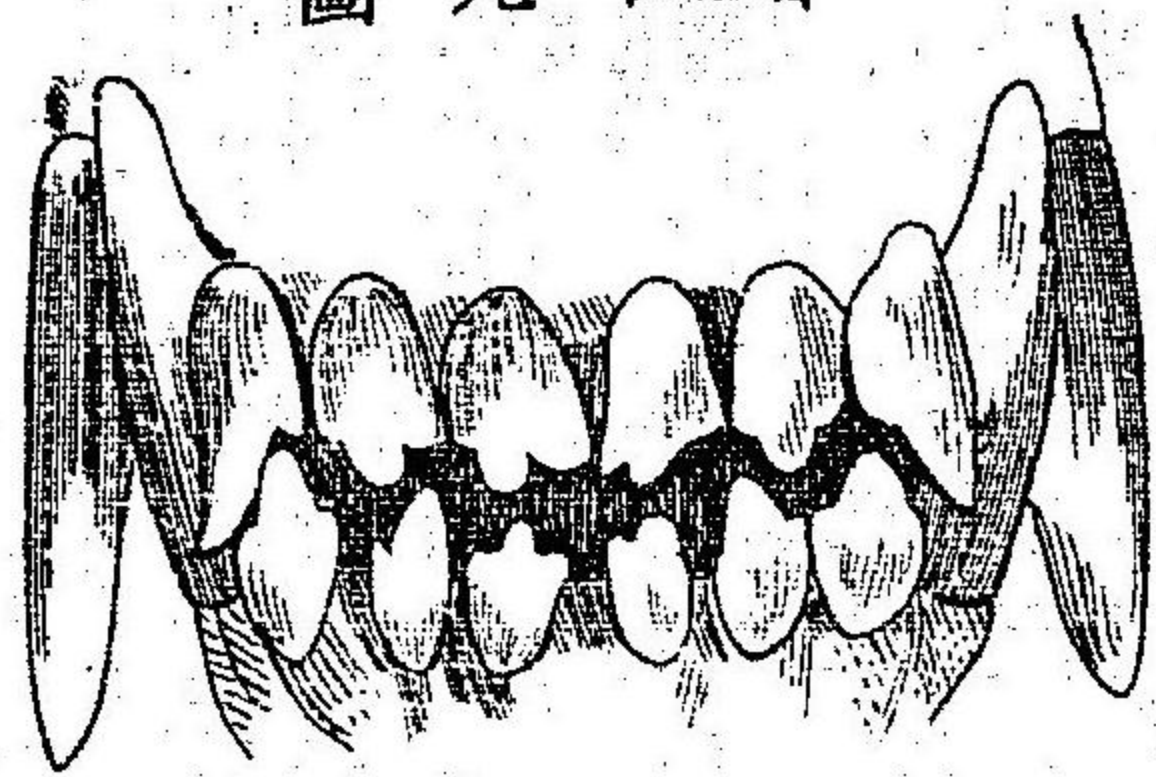
圖七世第



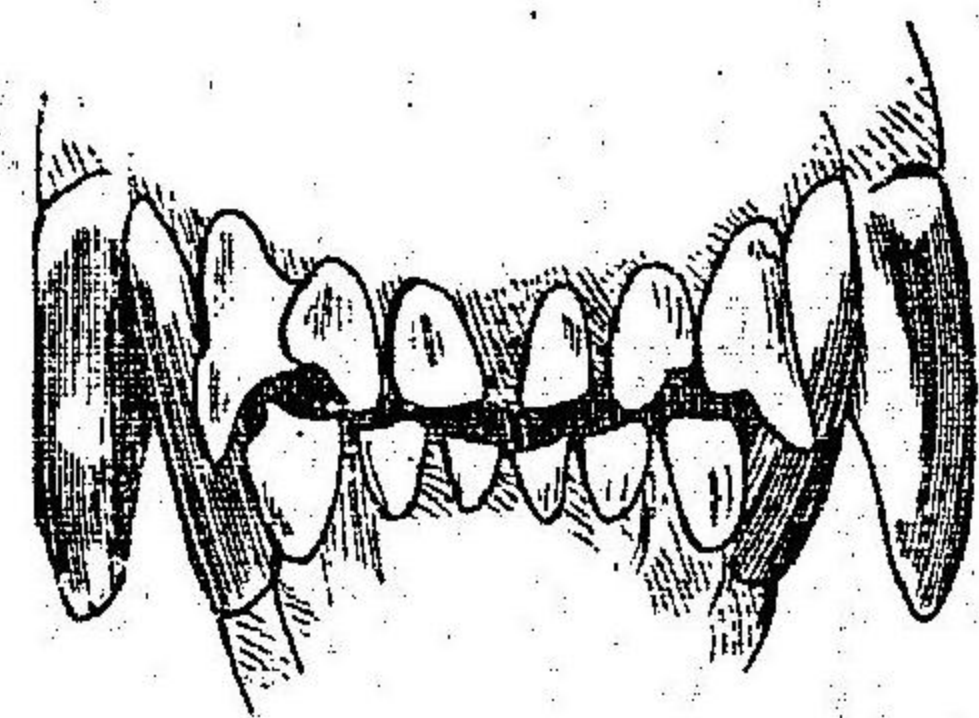
圖十四第



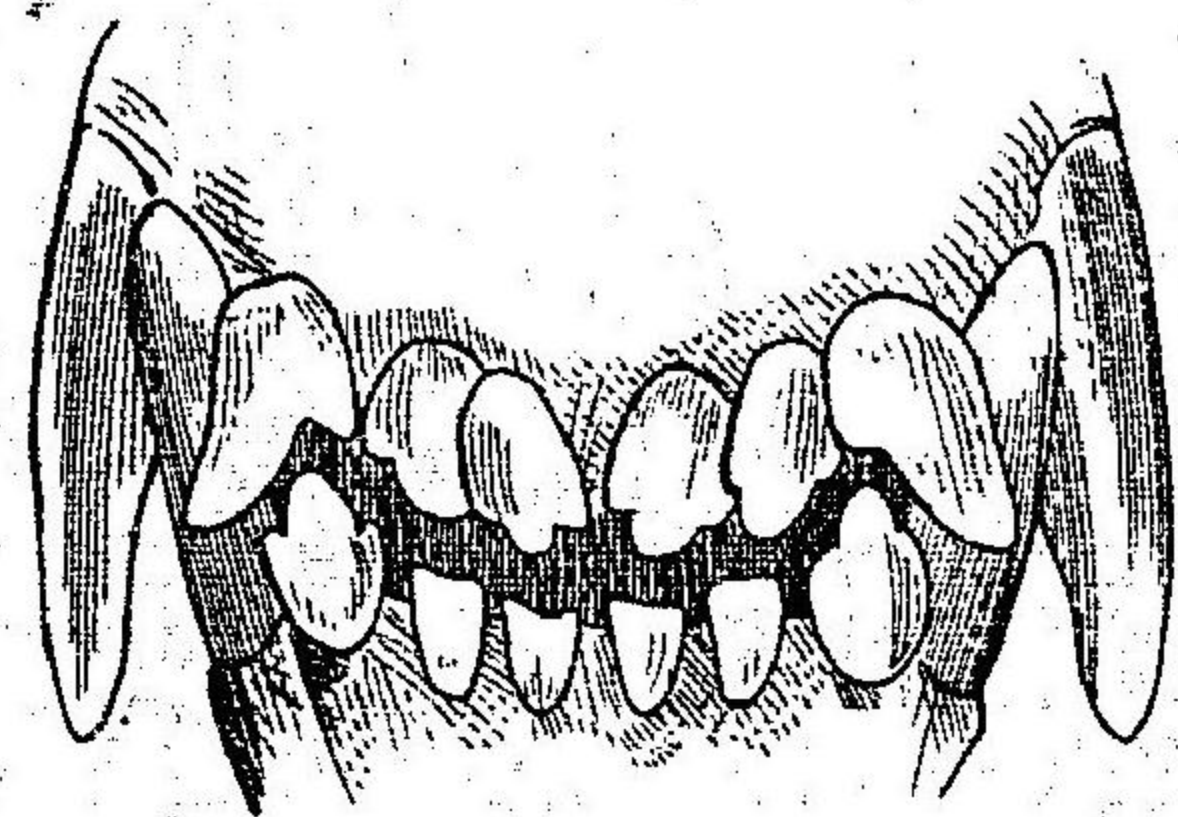
圖九世第



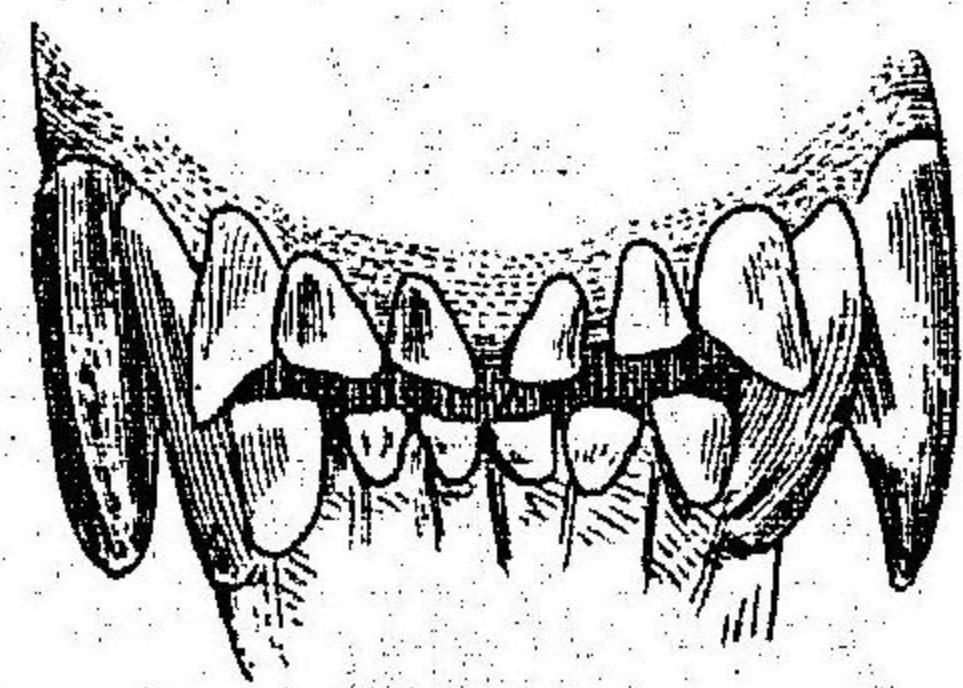
圖二十四第



圖一十四第



圖三十四第



明治十九年十一月廿九日版權免許
全二十年一月出版

定價金二拾錢

福島縣平民

撰者

今泉六郎

東京小石川區小日向
臺町三丁目百二番地

東京書肆

出版人

穴山篤太郎

京橋區南傳馬町
二丁目十三番地

發兌

有隣堂

印刷 有隣堂活版所



農商務省農務局御藏版

○家畜醫範

全十七冊
定價金八圓
近刻

獸醫學士田中 宏先生纂著

解剖學

自卷一
至卷三

三冊

獸醫學士新山莊輔時重初熊兩先生纂著

生理學

自卷四
至卷六

三冊

獸醫學士西川勝藏先生纂著

藥物學

自卷七
至卷九

三冊

獸醫學士勝島仙之介先生纂著

內科學

自卷十
至卷十二

三冊

獸醫學士須藤義衛門先生纂著

外科學

自卷十三
至卷十四

二冊

獸醫學士三浦清吉先生纂著

產科學

自卷十五
至卷十六

二冊

解剖
生理 圖譜

卷十七

一冊

此書ハ右諸先生脩學經驗ノ上纂著セラレシモノニテ獸醫諸君執業對策欠ク可ラサ
ルノ寶典ナリ

發兌書肆

東京々橋區南
傳馬町二丁目

有隣堂 穴山篤太郎

Handwritten text in a vertical column on the left side of the page.

25
162

5



25
162

064691-000-0

25-162

家畜年齢図説

今泉 六郎 / 撰

M20

CCD-0130

